



30th Anniversary

釧路公立大学 1988-2017

開学30周年記念誌

Koshiro Public University of Economics
The 30th Anniversary Memorial Booklet

建学の理念

- ◆ 地域に結びつき開かれた大学
- ◆ 国際性を重視する大学
- ◆ 理論と実践の相まった大学

釧路公立大学 開学30周年記念誌

目 次

P1	目次/建学の理念
P2	釧路公立大学校歌
P3	管理者挨拶
P4	学長挨拶
P5	特別座談会
P9	座談会①自治体勤務の卒業生
P15	座談会②金融機関勤務の卒業生
P21	卒業生インタビュー
P33	地域と歩んだ「標(しるべ)」
P45	釧路公立大学年表
P50	釧路公立大学名簿



釧路公立大学 校歌

作詞・作曲 ステファノ・木内

東に港あり

緑濃き海はるか

夕日に染まる街

庭なる釧路の

湿原に向かいて未来を祈る

おゝ 厚くとざす霧裂き昇る

舞う丹頂鶴あり

我等 釧路公大

阿寒の雪解けて

溢れゆく釧路川

川面に影映す

夢深き若人の

心は果てしなく広がるところ

おゝ 釧路原野の夜空にきらめく

群れ集う星あり

我等 釧路公大

荒れ狂う北の海

凍りつく湿地帯

窓辺に散る雪の

彼方にはの見える

光さす春の日の色鮮やかさ

おゝ 土の中より萌えいずる蕾に

決意の生命あり

我等 釧路公大



管理者挨拶



釧路公立大学事務組合管理者
釧路市長

蝦名大也

昭和63年4月、釧路管内市町村で構成する一部事務組合方式により設置された釧路公立大学が今年、開学30年目を迎えました。この間、初代の高嶋正彦氏、荒又重雄氏、板本猛氏、小磯修二氏、そして、高野敏行氏と5代にわたる学長の卓越したリーダーシップの下、歴任教職員が三つの建学の理念を受け継ぎ、本学が地域の高等教育、さらには経済・社会の発展の原動力として大きな役割を果たしてきたことを誇りとするとところであります。

4年制大学では全国初の一部事務組合方式での設置という道なき道を拓かれた鰐淵俊之元釧路市長並びに管内町村長はじめ関係各位の先見の明とご尽力に改めて敬意を表するとともに、地域の財産として本学を温かく育んでいただいた管内住民の皆様のご支援・ご協力に深く感謝を申し上げる次第であります。

当初は経済学部経済学科のみ、入学定員250人の単科大学として開学いたしましたが、平成7年12月に開学時からの懸案であった経営学科増設が文部省に認められ、平成8年4月には入学定員経済学科200人・経営学科100人とする学科の増設を果たしました。

これまでの卒業生は7,518人を数え、全国各地において様々な分野で活躍し、就職活動を行う在学生にとって心強いOB・OGとして親身に対応いただいているところでもあります。また、本学入学者は総じて1割強が釧路管内から、5割強がその他北海道内からという実態にある中で、管内出身学生や学生生活を通じて地域に愛着を持った道内・道外出身学生を採用する地元企業が着実に増えており、有為な人材を地域に定着させることに寄与しているところであります。人材の養成を通じた地域とのつながりに加え、平成17年度から行っている附属図書館の地域住民への開放などはまさに建学の理念である「地域に結びつき開かれた大学」を実践したものと考えております。

さらには、平成11年6月に設置され地域課題についての共同研究プロジェクト等を行っている地域経済研究センターの取組や、各種ゼミナール活動で地域に飛び出して地域の人々と共に学ぶフィールドワークなどは、「地域に結びつき開かれた大学」と「理論と実践の相まった大学」の二つの理念を体現してきたものであります。

もう一つの理念である「国際性を重視する大学」につきましても、カナダのサイモンフレーザー大学との姉妹校提携、キャピラノ大学からの招聘教員による授業や派遣留学、韓国の牧園大学・ロシアのサハリン人文工業大学・台湾の明道大学との交換留学など、国際的な人材養成や交流にも努めているところであります。

また、就職支援等を強化するため、平成23年度から札幌市に、24年度から道外11拠点都市にサテライトスペースを設け、25年度には学内にキャリアセンターを開設し、専任のキャリアコンサルタントがサポートにあたっています。

今日の大学を取り巻く環境は、18歳人口の大幅な減少や大学入試制度改革、大学認証評価への適切な対応など多様な課題を抱えており、また、地方創生の施策展開などにおいては、公立大学をはじめとした高等教育機関の地域における積極的な関与が求められております。

開学から30年が経ち、卒業生が社会の中核を担う年代に差し掛かった今、本学の歩みを黎明期から成長期、成熟期へと転換していく時を迎えております。そうした中で、これまで本学の発展にご尽力いただいていた多くの教員が退任を迎えつつあり、中堅・若手の教員を核に直面する課題に真摯に向き合い、本学の新たな歴史に足跡を刻んでいただくことに大きな期待を寄せるとともに、本学のさらなる発展に関係各位のより一層のご指導・ご協力をお願い申し上げ、開学30周年にあたっての挨拶といたします。

学長挨拶



釧路公立大学学長

高野敏行

「大学は昭和63年4月に開学したのだから、もう30年近くになりますね」ということを言われたのは昨年の初めころで、それも学内の人間からではなく近所の理髪店のご主人からでした。湿地を新たに造成したばかりの芦野の地にそのお店を開業したのが大学の開学と同じ年だったのでよく憶えているということ、以来いろいろあったということも話されました。それから私たち二人であの辺りはしばらくあとまで湿地だったとか、初めころやってきた学生の中にこんなのがいたとか、あんなのがいたという面白い話をしばらくしました。たしかに、大学も周辺の住人たちも、さらには土地そのものまでもがまっさらなかたちでスタートしたのでした。

釧路公立大学はここまでやってきました。その歩みは順調あるいは堅実といっぴよいと思っています。直接・間接に大学に関わり、支えてくださった皆様に感謝します。ありがとうございます。これからも、よろしくお願いします。

さて、この記念誌の話をしましょう。

どちらかというときちんとした形式というものを煙たがる私は、30周年ともなれば周年記念誌を作ることになるだろうなと少し重いものを感じていました。その時に考えていたのは、年表・資料・古い写真・たくさんの方の挨拶文などで出来上がっているよくある記念誌だったのです。ところが、私よりも若い世代から、「今回の記念誌は卒業生に焦点を当てて、釧路公立大学が人材育成というかたちで社会に広く貢献していることを知らせるものにしましょう」と提案されて、私は大いに喜びました。それを読みたいと思っている人はたくさんいるにちがいないと思えたからです。現に私自身も読んでみたいと思いましたし、楽しくそれを読んでいる人の笑顔がイメージできたのです。

かくいう私も蝦名管理者、2名の卒業生とともに座談会に参加しています。実際に少しだけ思い出話をしましたが、座談会の席に着いているあいだ、一つの思い出が次々に多くの思い出をつれてくるものだということ、しかもかなり自分勝手に修正しているようだという思いをもちました。さらに、自分の中にある大学にまつわる記憶のほとんどすべてが、まず何よりも人の顔、そのあとにその人と交わした言葉さらにはその場の景色という順序で浮かんでくることを知りました。自分にとっての釧路公立大学は、学生たち、先生たち、事務の人たち、一人一人との関わりの集合体なんだということを改めて実感し、幸せな気持ちになりました。

あいつ今頃はどんな顔つきになって、何をしているのだろうと思いつながらページを繰っているうちに開学間もないころの大学の様子やそこで話し、関わった多くの学生たち、先生たちの顔が、姿が心に浮かんでくるでしょうし、すぐにその彼らが現在それぞれの人生を歩んでいることに思い至って感慨を覚えることでしょう。自分の記憶を大幅に修正することになるかもしれません。めったにない読書(?)体験になりそうです。楽しくお読みください。

特別座談会 釧路公立大学開学30周年にあたって



出席者

国立大学法人
北海道教育大学釧路校 准教授

川前あゆみさん
(第4期卒業)

釧路公立大学学長
高野敏行

釧路公立大学
事務組合管理者
釧路市長

蝦名大也

社会医療法人 孝仁会
法人本部 財務部 課長

伊藤健一さん
(第1期卒業)

【30年を振り返って】

高野／私は開学時からずっと本学に在籍しておりますが、開学当時のことを思い返すと、まずは開学に関わった人たち、先生方の顔がたくさん思い浮かびます。入学式を迎える前に最初の教授会が開かれ、その席で初代学長の高嶋学長が挨拶され、「風通しのいい大学を目指したい」と話されたのをよく覚えています。

また当時の学部長であった吉武先生は、大学運営で何かを決めなければならないことがあると、「オーソドックスにいきましょう」とおっしゃっていたのを思い出します。本学は経済学部の単科大学としてここまで歩んできましたが、大学のあり方がシンプルでわかりやすく、この二人のリーダーが敷いたレールが今も息づいているのを感じます。

蝦名／開学に向けて尽力された鱒淵元釧路市長はじめ、多くの方々に敬意を表する思いです。今流で言えば地方創生ということになりますが、釧路公立大学の設立はまさしく地域づくりへの挑戦であったのだと思います。複数の市町



村による一部事務組合方式の大学は釧路公立大学が最初です。昨今、地方都市では定員割れで経営難に直面している大学が数多くありますが、本学は学生数も順調に推移しており、振り返ると、管内市町村が直接運営する公立の形態を選択したことが、今になって差に表れていると思います。

伊藤／私は第1期の学生でした。当時を振り返ると、体育館もグラウンドも無く、施設がまだ整っていませんでした。私はサッカー部に所属していたのですが、近隣の学校のグラウンドをお借りして練習していました。1期生は260人余りで、みんなが顔見知りで仲もよく、部活も掛け持ちしながら助け合ってやっていたのを思い出します。

仕事上、市役所や金融機関を訪ねる機会が多く、同期を含め釧路公立大学の卒業生がたくさんおられて、親しくお話することがあります。数多くの卒業生が地域で活躍されているのを見るととてもうれしく思います。



川前／私が入学した当時は、まだ3年生までしか在学していなかったのですが、先輩たちがとても大人に見えたのをよく覚えています。先輩たちが後輩の面倒を見たり助けてくれて、学年が違って近しい関係であったように思います。

私は今、北海道教育大学釧路校で教鞭をとっています。釧路公立大学は、単科大学のよさというか、学生と教員の距離がとても近い印象があります。街の至るところで卒業生がたくさん活躍されていますし、この地方にとって大切な存在なのだと思います。当時、この辺は一面の原野でしたが、大学を起点に周辺も開発が進み、街づくりにも貢献していることを強く感じます。

高野／開学当時の学生は、新しい大学ということで、どんな大学なのかもわからずに、好奇心旺盛にやってくるのですから、行動力とかチャレンジ精神とか、エネルギッシュな学生が多かったように思いますね。ただでさえ自由闊達な子たちですから、入学するとますます自由になる。だからパワーが違う。昨今の学生は、真面目で講義もあまり休まないですが、比較的小となしいです。ただ、きちんと目標を示してあげて、目標が決まると、とても力を発揮し伸びるタイプの学生が多い気がします。

【釧路公立大学が地域に果たす役割】

蝦名／釧路に大学があることで、18歳から22歳までの多くの若者が集まってきて、街を活気づけてくれるよい面があります。また、東北はじめいろいろな地方から学びにやって来て、釧路のことを知り、故郷に戻って釧路のよさを発信してくれることも大きいですね。経済に長けた有為な人材を、ここ釧路から数多く送り出している計り知れない価値を、私はとても強く感じています。

高野／釧路管内が大学を持っていることは、地域自らが人材育成や教育のあり方についての姿勢を表していると思います。それは釧路の価値を高めていますね。現在、本学には1,300人以上の学生がおり、地域へ果たす直接的な経済効果も大きいものがあります。長い目でみると、よい人材を地域に輩出し続けることこそが、この地にとって重要なのだと思います。

川前／釧路には釧路公立大学、北海道教育大学釧路校、釧路短期大学、釧路工業高等専門学校の中の四つの大学がありますが、私がいたころに比べると学生同士の交流もとても活発ですね。よさこいサークルなどもそうですし、公立大、教育大、釧路短大、高専と、学生たちが同じ活動に参加している話をよく耳にします。これは釧路くらいのちょうどいい大きさの都市だからこそ実現できているのだと思います。学生を見習って、教員同士ももっと交流していくべきかもしれませんね。

伊藤／先ほど市長がおっしゃっていたように、学生がそれぞれの故郷に戻っても、釧路の良さをPRしてくれる効果は大きいですね。サンマやホッケ、シシャモといった地場産品を大いに宣伝し、また消費もしてくれる。

高野／今、1期生や2期生くらいの人たちは、市役所だと課長職の人もあります。彼らが本領を発揮するのはこれからで、ますます楽しみですね。金融機関や民間企業に勤めている卒業生もこれからはますます重要な地位に上がってくる。

蝦名／釧路管内市町村と釧路公立大学の近い関係の一例として、地域経済研究センターの存在がありますね。

高野／センターは平成11年に設立され、もう18年になります。地域に開かれた社会学科系の研究機関です。経済を中心に地域の様々な課題に取り組み、その成果を社会に還元することを活動の主な柱としています。

蝦名／釧路市もセンターと共同研究プロジェクトを組み、財政の健全化や公有資産の長期運用管理、公共施設の整理など、市の様々な課題について市職員らと共に研究を進めてきました。センターの素晴らしいところは、コンサルのように単に外部委託先として研究レポートを提出して「はい終わり」ではなく、市職員共々一緒になって考え、研究を進めていくところです。共同で取り組むことで、市の職員には経験とノウハウが蓄積される。問題解決のプロセスや実践方法を学ぶことができます。

私自身も、当時センター長だった小磯前学長が主宰していた社会人自主ゼミナールの2期生で、道議会議員でしたが、月1回通って1年間学ばせてもらいました。そこで行政問題の考え方や、実践的な思考力をつけさせてもらいました。

【釧路公立大学のこれからについて】



高野／これから少子化がもっと進み、平成32年にはセンター試験に代わる共通テスト導入と、大学を取り巻く環境はどんどん変わっていきます。幸い本学は経営的には安定していますが、運営者として将来的にもこれを維持していかなければならないと思っています。

大学だけでなく、日本はこれからどんどん変わっていくでしょう。大学は、学生がそういう変化を自身で越えていく力をつける場所であればなりません。そのためには、知識を超えたも

の、人間力といった、人としての根を鍛えなければなりません。そういったことができるのが、教員と学生の距離が近い小さな本学の特長だと思います。本学はこれをずっと大切にしていかなければなりません。



川前／経済学は数値化で物事を計ることが中心の学問ですが、私の勤めている教育大では、教育の成果がすぐには数値化できないものが中心です。高野学長の話の聞いていると、公立大にも経済学の枠を超えた人材育成というすぐに数値化できない部分の取組が今後より求められると感じます。

伊藤／少子化で大学が生き残りを模索する中、この大学に何か提案するとすれば、学生には独立心を養うというか、将来起業して会社を立ち上げるような人材育成の色を打ち出すのも、経済を専門とする大学にはよいと思います。卒業して会社を起こすなど、将来、仲間と何かやろうというときに、少しでも役立つようなものが大学で身につくとよいですね。

蝦名／管理者としては、今後、大学の経営をどう舵取りしていくかを、常に考えていかなければなりません。しかし、大学の理想という点

で言いますと、今後、世の中がどう変化していこうとも、激動の社会を乗り切っていく力をつけさせる人材育成が重要です。学生本人のためにも、学生の親御さんもそれを切に望んでいるのだと思います。福沢諭吉の「学問のススメ」も学問のことより人としての生き方を書いています。要はどんな時代にあっても自分の頭で考えられる力ですね。

高野／この大学の将来について、特に教育というより運営面に絞っているなら、やはり学生の満足度を上げるということが大切です。施設の改善や新設など、学生に喜ばれるニーズを捉え、満足度を高めていくこともポイントだと思います。

もう一つには、大学が地域を高め、リードしていくような存在になること。そうした活動に力を注いでいくことで、地域から大切にしてもらえる。附属図書館の一般開放、公開講座のように、市民から親しみをもって、好意的に感じてもらえる活動を強化していくことが、釧路公立大学のあるべき姿だと思います。



座談会① 自治体勤務の卒業生



出席者

石川美佐絵さん（第1期）釧路市福祉部生活福祉事務所

高松 一哉さん（第2期）鶴居村保健福祉課

佐藤 陽平さん（第11期）白糠町企画総務部総務課

櫛引真由子さん（第13期）厚岸町教育委員会管理課
(旧姓 菊地)

高橋 俊介さん（第16期）標茶町総務課

内村 和樹さん（第20期）浜中町企画財政課

佐藤 豪留さん（第20期）釧路町教育委員会教育部管理課

山崎 友寛さん（第21期）弟子屈町環境生活課

大学時代の思い出



石川／開学当時は大学設備も完全なものではなくて、体育館もありませんでした。大学周辺は、本当に何にも無くて、今のような繁栄した姿はとても想像できませんでした。

私は最初、軽音楽部に入部しました。ライブ会場がアトリウムだったのを覚えています。部室も無かったので、事務局の方に地下室を使わせていただいて練習していました。その後、軽音楽部を退部して、女子アイスホッケー部を設立し、初代の部長兼主将をやりました。サークルを立ち上げたのは男子が中心で、女子中心の部活はありませんでした。活動的な女子で何か作ろうということになり、釧路ならではの運動部ということで、アイスホッケー部を立ち上げました。チームの取りまとめがなかなかうまくいかないこともありましたが、練習相手をしてくれた社会人チームは強過ぎて、全然相手にならなかったのですが、とても楽しかったです。



佐藤(豪)／私は大学時代、サークル活動はしていなくて、映画館でのアルバイトに明け暮れていました。そのアルバイト生活が今の自分にとっても役立ったと思っています。経済学部卒だったからかどうかはわかりませんが、役場

では最初に財政課に配属され、日々、数字と向き合って苦勞していました。



樋引／私は厚岸で生まれ育ったので、大学に入ったことで世界が広がりました。当時の新入生には、東北や関西、九州などから来た方もいて、そういう人たちと友達になれたことで、とても視野が広がって楽しかったのを覚え

ています。厚岸からJRとバスを乗り継いで大学に通っていました。アルバイトは4年間同じファストフード店で働いて、そこでいろいろ社会勉強し、経験させてもらったことが後々とても役に立ちました。



内村／私は高校から釧路に住み始めました。大学時代は、私もアルバイト漬けの日々でした。サークルでは軽音楽部と、キャンプを企画する活動などをしていました。

役場では最初に農林課へ配属になり、今は企画課に移って2年目になります。農林課では大学で学んだことはあまり役立てられなかったのですが、今の課では少し役立てられています。



高橋／私は、標茶生まれでずっと標茶で育ちました。私の学生生活もアルバイトが中心でした。正直なところ、あまり大学にはまじめに通っていない学生でした。年に何度しか校舎には行かず、たまに行った時でも95%くらいは所属していた軽音楽部の部室にいたように思います。高校時代に学祭で一度ドラムをたたいた程度で、大学入学当初は素人同然でしたが、部室に入り浸っていたおかげで上達できました。先輩後輩、サークルのつながりがとても楽しい日々で、今も頻繁に連絡を取り合っています。



山崎／私は卒業して最初に勤務した会社をわずか2か月で退職して、2年間のフリーターを経て、弟子屈町役場に就職しました。まだ3年目です。環境生活課でゴミの処理の仕事などをやっています。

私は卒業単位ぴったりで卒業するほどの出来の悪い学生でした。それでも友達との仲はとてもよくて、今でも交流は続いています。去年は東北の友達の結婚式に出席してきました。



高松／私は実家が標茶町でしたので、2年生まで、JRとバスを乗り継ぎ、片道1時間30分かけて通学していました。3年生からは授業が少なくなったので、車での通学となりました。2期生ですが、平成元年の入学当時は周り

には何もなくて、大学の正門前は一带が葦の原野でした。日中は工事車両が常に走っていて、現在の文苑地区に一気に街が出来上がっていったのを覚えています。バブル真っ盛りのころで、釧路も景気がよかったですね。

アルバイトは、標茶町内で中学生や高校生の家庭教師をしていて、生徒をたくさん受け持っていました。中には、釧路公立大学に進学した生徒もいましたよ。

サークルはバレーボールをやっていました。標茶から通学していたこともあり、時間的な都合で正規の部には入らず、同級生のサークルに入れてもらってやっていました。いわゆる「非正規軍」です。このサークルには、インターハイの代表選手など、バレーボール経験者が多く、釧路管内の大会に出ても勝ちましたし、正規のバレーボール部と試合をして勝ったこともありましたので、結構レベルが高かったですね。



佐藤(陽)／私は釧路市の出身で、大学へは新富士の自宅から6km近くを自転車通学していました。川沿いの通学路は行きも帰りも向かい風で、太ももがパンパンになるほどでしたが、アルバイトでお金が貯まるまでずっと自転車通学でした。アルバイトは日雇いの仕事を中心に、五木ひろしさんのコンサートスタッフなどもやっていました。学生のころから社会の厳しさを学んでいました。

現在の仕事、 公務員としての今

佐藤(陽)／私は今四つ目の部署です。最初は水道課で、滞納者への対応は大変でした。目の前で夫婦が突然喧嘩を始めたこともあります。経理も担当していたのですが、在学中唯一落とした科目が簿記でしたので、その私が経理でいいのかという思いでした。二つ目が経済部の産業振興課で、やっと大学で学んだことが活かせるかなと思ったら、白糠町が力を入れているシソ畑の管理などをすることになって、自分は一体何をやっているのだろうと思うこともありました。その後は広報で、新聞記者のようなこともやりました。事務以外の仕事が多く正直大変でしたが、いろいろな経験ができて、とても充実しています。

高松／公務員はやりがいのあるいい仕事だなと思い、最初は道職員になったのですが、入った部署が当時とても過酷で、職場に泊まり込む日が続き、これでは体を壊すと思って道職員を退職しました。幸運にも、縁があり道職員を退職した次の日から鶴居村職員に採用していただきました。村役場は職員の数が少ないものですから、こちらも仕事はかなり大変で、自分の考えの甘さに気付きました。自分一人で複数の業務を同時並行でやらなければならないことが多々あり、11年間在籍した教育委員会では、夏にはキャンプ行事の準備や運営など、各種イベント続きで、土日勤務になることが多く、なかなか休みを取れなかったことがありました。その後、配属された産業課では、商工観光を担当しました。そこでは同じ課の農政係や林政係などの他の業務を手伝い、その後異動した振興課や住民課でも様々な業務を経験できましたので、今では仕事の幅が広がったと実感しています。現在は、保健福祉を担当しています。職員はオールラウンドプレーヤーにならなければいけないと、小さい村ゆえの大変さを感じています。

石川／私は勤め始めて26年間、ずっと福祉の仕事に携わっています。公務員の仕事で辛いなと思うことは、やはり法律に基づいてやらなければならないので、困っている人に法律以上の支援がしてあげられ

ないことですね。これが民間企業なら柔軟な対応で支援してあげられるのかなと思うことでも、できないのが辛いですね。

山崎／大学時代にはごみの分別をあまり意識していませんでしたが、今、環境生活の部署に来て、資源ごみの認識が高まったと思います。分別を間違えると、処理場の人に迷惑がかかるといったように、公務員になって意識が変わりました。交通ルールなどのモラルの面でもそうですね。

佐藤(豪)／民間と公務員では、利益の考え方が違います。公務員の場合は、あくまで住民の利益という考え方です。住民への対応の仕方や、仕事の進め方も前例に則ったカタチが主になります。備品や消耗品などは税金で賄われているのでムダにはできません。

櫛引／採用以来、教育委員会職員として11年間教育行政に携わっています。今の部署では、主に小中学校の予算執行や奨学金に関する業務を担当しています。厚岸町の児童生徒が充実した学校生活を送れるよう、微力ながら貢献できればと思い勤務しています。

内村／公務員はパソコンに向かって仕事をするんだなという漠然としたイメージを持っていたのですが、すぐに、農家に派遣されまして、家畜の糞の始末などの手伝いをしました。これも公務員の仕事かと衝撃を受けました。

釧路公立大学出身で よかったと思うこと・ 地域に貢献していると思うこと

石川／釧路公立大学の事務局の方は釧路市から派遣された職員で、私が釧路市に就職すると同時に同僚になりました。学生時代からずっとよくしていただいた方も多くいて、今でも「学生の石川」というイメージ

で関わってくださっています。いつまでも目をかけていただいてありがとうございます。釧路市役所には現在、卒業生が100名を数えるほど大勢いらっしゃいます。そういう意味では親近感や連帯感が生まれていますね。

高松／鶴居村役場には卒業生は私くらいで、釧路市とはずいぶん違うのですが、釧路管内の市町村には同期がけっこういますね。横のつながりで、他の市町村の状況など情報交換ができて助かっています。

佐藤(豪)／釧路町役場にも卒業生は多いですね。同窓ならではの親しみを感じます。釧路公立大学で公務員になる方は多いです。東北から来た人も地元に戻って公務員になった方がたくさんいらっしゃいます。東日本大震災でも頑張っていたと聞きます。

高松／釧路公立大学が地域に貢献しているということ言えば、今、人口の減少が顕著に進んでいる中で、大学に来られた方が地域経済の下支えをしている面はありますよね。約1,300人の学生が地域にいて経済を活性化していると思います。

石川／釧路市職員には、大学進学を機に他の地域から来て、釧路を好きになって職員になった方もいます。夏の涼しさなど釧路のよさを知っていただいて、大学があることで外部から来た人が少しずつ増えてきているのではないのでしょうか。



佐藤(豪)／釧路町目線でお話すると、釧路町が発展しているのは釧路公立大学の存在が欠かせないと思いますね。大型スーパーの進出などは、大学のおかげによるところは大きい。

内村／飲食店のアルバイトや下宿・アパートの利用なども釧路公立大学の学生が随分と地域に貢献していますね。

これからの釧路公立大学に期待すること、後輩へのメッセージ

佐藤(陽)／白糠町役場には釧路公立大学の卒業生が2名しかいないので、ぜひ白糠町に来ていただきたいですね。一緒に頑張りましょう。

内村／大学時代を振り返って、後悔していることは、留学をしておけばよかったということです。無理しても行っておけばよかった。ですから、後輩諸君には、今できることをしっかりやっておいてほしいと思います。この大学には留学できるチャンスが多くあるわけですから。

高橋／あまり勉強しなかったので、偉そうなことは言えませんが、勉強もほどほどに、遊びも楽しんでほしいですね。

山崎／大学の時しかできない、旅行なども楽しんでほしいですね。卒業後も遊べる友達をつくってください。

石川／私はアイスホッケーに夢中になっていた学生生活だったこともあって、後輩にはぜひ熱中できることを見つけていただきたいですね。せっかく釧路に来たのだから、ぜひアイスホッケーをやってみませんか。

櫛引／もちろん勉強も大切ですが、大学時代築いた人間関係はかけがえのないものですから、友達付き合いを大切にしてほしいですね。

佐藤(豪)／ちょっと厳しい言い方をすると、大卒で公務員になるとそれなりに期待されます。大学を出たのだからと。アルバイトでも何でもいいですから、社会的な経験をして、マナーや会話の仕方などをしっかり身につけておいてほしいですね。

高松／常識や最低限の社会性は必要ですね。そして、釧路公立大学の卒業生としての誇りと気概を抱いて社会に飛び出してほしいです。







出席者

大原 礼孝さん（第5期）釧路信用金庫 経営企画部

佐々木俊哉さん（第19期）釧路信用組合 西港支店

中村 浩樹さん（第23期）大地みらい信用金庫 釧路東支店

板花 昂太さん（第24期）網走信用金庫 釧路支店

金澤 郁美さん（第25期）北海道労働金庫 釧路支店

田井 礼子さん（第25期）北海道銀行 釧路支店

大学時代の思い出



大原／私は静岡県の御殿場市の出身で5期生になります。釧路公立大学は当時、受験日程が組みやすい東京での試験という理由で、どこにあるかもよくわからず受験を決めました。

入学で初めて釧路に来て、まずその寒さに驚いたのと、スパイクタイヤの粉塵で埃が舞っていて、第一印象は最悪でした。大学では最低限の単位は取りましたが、あまり真面目な学生ではなく、さぼることも多かったです。4年間ずっとサッカーをやっている、その時の仲間とは今も親しくしています。道東の信用金庫に就職し勤めている同期がいますが、たまに会って昔の話をします。

当時の思い出で特に記憶に残っているのが、下宿に給湯器がついていなくて、冬の朝、顔を洗うのがとても冷たくて辛かったことです。第一印象が悪かった釧路ですが、在学中の4年間で、私の釧路観がすっかり変わりまして、今では釧路が大好きになりました。



板花／私は十勝の陸別町の出身で、日本でも有数のとても寒い町から来ました。来た当時は、釧路の風がとても強いので、陸別よりも寒いと感じました。1年から2年にかけての下宿生活はとても楽しかったです。下宿生活を共にした仲間とは、今でも付き合いがあります。

道内はもとより東北はじめ、いろいろな地方から学生が集まっていますので、そういう違う環境で育った人たちとの出会いが、学生時代の財産ですね。



中村／私は岩手県の出身で、釧路のことをよく知らずに来ました。気候も岩手に似たところがあり、過ごしやすくいイメージがあります。岩手もかなり雪が降るのですが、やはり釧路の寒さは肌に痛いほどで、最初はとても驚きました。

学生時代は準硬式野球を頑張りました。アルバイトは掛け持ちしていろいろな経験をすることができました。私の弟も今年、釧路公立大学を卒業しまして、兄弟揃ってお世話になりました。



田井／私は釧路市音別町出身です。ずっと釧路の大学に行きたいと思っていましたので、釧路公立大学へ入学しました。本当は一人暮らしがしたかったのですが、親の反対で叶わず、4年間JRで通っていました。朝早く家

を出なければならなくて、大変でしたが何とか通いきりました。学生時代は女子アイスホッケー部のマネージャーをしていました。最初は興味もなく友達に誘われて始めた部活でしたが、入ってみると面白くてけっこうはまっていました。今思い起こすととてもよい思い出です。



金澤／私は25期卒で今年社会人2年目になりました。高校卒業と同時に一人暮らしを始めて、周りの友達も一人暮らしの人たちばかりだったので、学生時代はそういった仲間が集まって遊んでいました。大学ではスノーボード

サークルに所属していました。とてもにぎやかなサークルで、仲間との楽しい思い出がたくさんできました。ゼミでキャンプに行ったりしてとても充実した4年間だったと思います。



佐々木／私は北見市の留辺
薬町の出身で、高校の時まで
留辺薬で過ごしました。高校
を卒業してすぐに公務員にな
りたかったのですが、準備不
足でなれず、しっかり時間を
かけて実現しようと進学を決
めました。親に金銭的負担を

かけたくなかったので、アルバイトに精を出しすぎて、
勉学が疎かになり単位取得も危ういときもあったの
ですが、3年生に集中して単位を取得して何とか就
職活動に専念できました。2年生のころに、公務員か
ら金融機関に路線を変更して、釧路信用組合に就
職することができました。

就職した当時の思い出、 現在の仕事について

佐々木／今、渉外担当の仕事をしています。銀行マン
は人との関わりが特に大切な仕事だと感じていま
す。営業職なので大変なときもありますが、やりがい
があります。銀行マンにとって何より大切なのは、や
はり、お客様との信頼関係を築き、それを厚くしてい
くことだと思います。

金澤／私は現在、預金係として窓口で勤務していま
す。“ろうきん”は労働組合のお客様が主です。最初
は何もかもわからず慣れないことだらけで、一から仕
事を覚えていく毎日でした。銀行員は試験を受け資
格を数多く取得していかなければならないので、試
験勉強が大変です。また、ジョブローテーションという
部署異動を行っているため、先輩や後輩への仕事
の引継ぎがあってそれも大変ですが、その分やりが
いも大きいです。

田井／私は昨年、北海道銀行釧路支店に入行して、
今年2年目になります。3月まで為替の部署で働いて、
4月からは出納の所属になりました。係が変わって最
近やっと慣れてきました。出納ではその日の現金が合
わないと仕事が終われないので周りに迷惑をかけな
いようプレッシャーがあります。金澤さんがおっしゃ
ったように、試験もけっこう多くて大変ですね。北海道

銀行釧路支店は今年10月に移転が控えていて、そ
の準備も忙しくなっています。

中村／私は入庫して最初の勤務地が羅臼支店です。
羅臼では日用品以外の大きな買い物は中標津
町まで車で1時間かけて出かけなくてはなりません
でした、冬の寒さも苦労しました。羅臼支店にいた当
時、ローンの契約でお客様から印鑑をもらい忘れて
しまったことがあって、標津町まで車で50km走って印
鑑をもらった失敗を思い出します。

昨年、釧路東支店に転勤になりまして、現在渉
外担当をしています。金融の仕事は商品のいろ
んな知識を身につけなければなりませんし、資格試
験が多いのも大変ですね。

今年も大学の後輩が入ってきて、現在、マン
ツーマンで後輩の指導もしているところです。新人
は1年目でどれだけ成長できるかが大事なポイントと
なりますので、教えることの難しさ、責任を実感し
ています。

板花／私は現在、網走信用金庫釧路支店に勤務
し、3年目になります。預金係の窓口担当で、周りはす
べて女性で上司も女性、男は私一人です。女性に囲
まれた職場環境は何かと気を遣うので大変です。

預金係には毎年新人が入ってきます。私が指導係
を任せられているので、指導教育の責任をしっかり
果たしていかなければならないと自覚しています。

大原／私は現在、経営企画部という本部部署にお
りまして、新規の事業拡大や収益管理、地域貢献に
向けた事業の企画、実施などの仕事をしています。

昨年は当金庫の90周年の記念誌も作りまして大
変苦労しました。営業部署にいたときもそれなりに苦
労はありましたが、今、経営管理の部署に身を置いて、
昨今経営環境の変化が激しい中に、どうやって
事業を展開していくか、頭を悩ませている日々です。

金融関係の仕事は、人と接することが好きでは
ないと務まらない仕事です。たとえ頭がよくてもコミュ
ニケーションをとることが苦手な人は、入庫後苦労
する方が多いように思います。しかし、人付き合い
がしっかりできる人は、入庫した時、あまりぱっとし
なくても経験を積むにしたがって伸びていくことが多
いですね。

釧路公立大学出身でよかったと思うこと

田井／私の職場には一つ上の卒業生がいます。後で知ったことなのですが、この先輩が入行時から頑張っていたことが評価されて、私たち後輩に道をつくってくれました。自分もこれから当行を目指す後輩のためにもしっかりしなければならぬと思っています。

学生の時、ホテルの宴会サービスのアルバイトをしていたので、接客での挨拶の仕方や言葉遣い、電話対応などを学べたことが、今の仕事に役立っています。

中村／私の職場にも卒業生の上司が何人かおられて、飲み会に誘われたり何かと面倒を見てもらっています。大学の先輩の存在はやはり頼りになります。

また、地元の方と同期がいて、連絡を取り合っています。遠方からも大学時代の友人が結婚式に来てくれたり、今も仲よくしてくれて、ありがたい存在ですね。

板花／私の支店には卒業生は私一人だけですが、職場全体ではたくさんいますので、卒業生同士何かと助け合う機会も多いですね。仕事上、何かわからないことがあるときも、卒業生だと聞きやすいですし、親近感もあります。

私は、入学当時、教員を目指していたのですが、経済学のゼミで大きな感銘と影響を受け、金融機関の今の職場に巡り合えたのも、この大学のおかげだと思っています。

大原／私たちの世代も含め、多くの先輩たちが地元企業で活躍され、実績を重ねてきたことで、後輩への道を作ってきたのだと思いますね。先日も東京からお客様がいらしゃって、よくよく話を聞いてみると、その方が大学の先輩で、それで一気に距離が縮まったということがありました。ビジネスの世界ではそういうつながりで、よい方向に向かうことがしばしばあります。

佐々木／私が担当する取引先にも卒業生のお客様が多くいらっしゃいます。同窓のよしみで親しくお付き合いいただくこともあります。卒業して7年になりますが、同期とは年に1、2回集まる関係が今も続いています。

学生時代は、派遣会社を通じていろいろなアルバイトをしていて、牛丼屋、ゲームセンター、引越屋と様々な業界を知る機会がありました。振り返れば、そのような経験も今に役立っている部分があると思います。

金澤／当金庫の支店は釧路管内に一つしかないのですが、今年もこの大学から一人の新人が入ってきました。会社の行事で全道から職員が集まる機会があるときなど、同窓で盛り上がることもあります。

私の友人にも何人か金融機関に就職した人がいます。就職活動でも励まし合ったり、情報交換など協力し合って就職活動に臨めたのでよかったですね。その時の仲間たちは今も連絡を取り合う仲です。

学生時代はアルバイトで接客が中心の仕事をしてきたこともあり、そこで鍛えられたことが今の窓口業務に役立っているかなとも思っています。

釧路公立大学が地域に貢献していると思うこと

中村／在学中はよく知らなかったのですが、金融機関に入って、この大学が地域経済の活性化対策などいろいろな分野に貢献しているということを改めて知りました。社会人向けのセミナーなど私たちが参加する機会もあり、私自身も地域経済の活性化に向け、共に考え関わっていければと思っています。

板花／この大学には全国各地から学生がやってくるから、地域の活性化に一役買っていると思います。東北から来て、故郷に帰り、震災復興で頑張っている人も多くいます。消費活動や雇用など、釧路の地域経済にも一定の役割を果たしていますね。

大原／今の部署にいて特に感じるのは、釧路公立大学が、地域にとって大きな存在になっているということです。地域経済研究センターでは、地域と一緒に観光振興や物産品開発の共同研究を盛んに行っています。特にこの10年は、シンクタンクとしての機能が高まっています。

私もセミナーに参加させていただくことがあって、セミナーを通じて課題の存在や解決に向けてのヒントを聞いたりして、「なるほど、こういう考え方、やり方もあるのか」と今の仕事に役立っています。

昨今は“産学官金”という連携の言葉をよく耳にしますよね。釧路ではこの地域連携がよく実践されています。これも釧路公立大学の存在感が大きくなっているゆえなのではないでしょうか。

佐々木／釧路公立大学ができるまでは、このあたりは湿地が広がっていて、この大学ができたことで、この地域に若者が集まり、家や商店もでき、街が発展してきましたね。今では利便性がよく、住みたい街に変貌しました。おかげでインフラも整い、地域に貢献している事例だと思います。

金澤／日本全国から学生が集まり、卒業後も地域に根差し頑張っている方が多く見受けられます。また、それぞれの地元に戻った方の中にも、釧路に遊びに来てくれる方がたくさんいらっしゃいますね。

私が所属していたゼミでは、釧路をPRする動画を制作するプロジェクトをしていました。釧路ザンギの大食い対決や、釧路の冬遊びの紹介など、わかりやすいテーマで動画を制作して、YouTubeにアップし、その閲覧再生回数を競うというものです。小さなことですが、地域のために貢献できたのではないかと思います。

田井／私は、環境系のゼミでしたので、卒論もタンチョウを中心とした地域の自然環境についてまとめました。他地域から来た学生の中にも、釧路の環境をテーマにした卒論にトライした人もいて、外から来た人が釧路を知るよい機会となっているところも、この大学の地域貢献なのかなと思います。

大原／私が入学したころは、校舎の2階から外を見ると、正門の向こう側はまだ何もなくて、ずっと遠くまで見通せました。それから30年でこんなに周りに家が建って、街が発展するとは思いませんでした。本当に地域の経済発展に大きく貢献していますね。



今後釧路公立大学に 期待すること、 後輩へのメッセージ

中村／卒業後はぜひ釧路に残って就職してほしいですね。私から後輩にメッセージを送るとしたら、今を大いに楽しんでほしい。就職したらできないこと、学生のときにやっておけばと思うことが必ずあります。できることなら私も学生時代に戻りたいと思うことがありますから。

佐々木／社会人になると時間もなかなか自由になりません。今を大切にしてほしいですね。そして卒業後も長く付き合える仲のよい友達をたくさんつくってください。

板花／経済学の単科ではありますが、法律や教職などいろいろな学問を学ぶ機会もありますので、一生懸命勉強して、いっぱい遊んで、アルバイトもして、充実した時間を過ごしてほしいですね。

金澤／私が卒業した次の年には、電光掲示板が新

設されたり、カフェができたりして、学生にとって学びやすい環境が整ってきていますので、これからも学生のためにどんどんよくなってほしいと思います。大学時代は長いようで意外と短い時間なので、しっかり目標を定めて一日一日を大切に過ごしてほしいですね。

田井／大学にお願いしたいことは、釧路に就職する人をもっともっと力を入れて支援してほしいですね。地元金融機関にもよい人材を送り出してほしいです。後輩には、勉強も遊びもアルバイトも、大学時代にしかできないことを4年間でしっかりやりきって社会に進んでいただきたいと思います。

大原／先ほどの金澤さんのお話にもあったように、学生が地域のPRや情報を積極的に発信することはとてもよいことであり、この大学の素晴らしい点だと思います。釧路のことを研究することにかけては、他のどの大学にも負けない存在であってほしい。そして地域の研究が地元のいろいろな企業に波及していくことを期待します。

後輩には、学生時代に何でもよいから夢中になれることを一つ見つけて、それを中心に仲間づくりをしていくのもよいかなと思います。



卒業生インタビュー 1～10期



明日見 学さん

卒業年／平成4年(第1期)
勤務先／三ッ輪運輸株式会社(釧路市)
第一営業部 外航課 課長

大学で様々な経験を積んで活力ある人間に

大学受験では、札幌や小樽の大学を受けたのですが全滅の結果で、唯一、釧路公立大学だけ合格することができました。おかげで第1期生という記念すべき卒業生となりました。開学当時の釧路公立大学は、道外からの学生も多く、関西から東北と様々な方言・イントネーションが飛び交っていて、物珍しさと刺激がありました。

大学では1期生がゆえに自由そのものでした。先輩がいなかったのも、自分たちの意思で何でもできたり、何かを作るにしても反対されたり、抵抗を受けるようなことはまったくありませんでした。当時は体育館もまだ建設中で、不便なところもありましたが、新設校ならではの経験をさせてもらいました。

また、4年間釧路市内の親元から通うことができたので、



卒業式の謝恩会にて(中央)

経済的な負担も少なく、その点では少しだけ親孝行できたかなと思います。

大学に受かったことで大いに羽を伸ばしたのは事実です。大学生になったら、いろいろやりたいことがたくさんあって、まず中古車を買って、仲間とドライブに行きました。その勢いで十数人の仲間とドライブサークルをつくり、テニスをしたり、とにかく遊びに没頭した学生生活でした。

(遊びの)資金調達のため、様々なアルバイトをしていました。中でも接客業は楽しかったです。接客なんてという言葉は知りませんでしたが、笑顔、マナー、気配りなど、アルバイトを通じて学んだことは多かったんです。ただし、学業が少しおろそかになった。もう少し、真面目に学業もやっておけばよかったですね。

現在は、主に、貿易の玄関口である釧路港にて、外国貨物の輸出入通関業務を行う外航課課長として三ッ輪運輸株式会社に勤務しています。相手先は、東京の船会社、商社等多数。12年間、釧路を離れ、東京支社、札幌支社と営業最前線で、得意先営業窓口として勤務させていただきました。その経験を生かし、釧路港利用促進を足掛かりに釧路の発展に少しでも寄与していきたいと思っています。

社会人になり、何が役に立つなんてわからないものです。勉強に打ち込むこともいいですが、学業以外にも、スポーツ、旅行、上下関係(先輩後輩)のコミュニティーなどいろいろと経験を積んで人間を磨き、バイタリティーのある社会人目指して、学生生活を大いに楽しんでください。



佐藤 公治さん

卒業年／平成6年(第3期)
勤務先／北海道日高振興局(浦河町)
産業振興部 林務課 係長

アイスホッケーとアルバイトを 両立した4年間

オホーツク・興部町出身の私が、釧路公立大学に進学したのは、高校の担任の薦めでした。開学したばかりの道内の国公立大学であったこと、また、パンフレットを見ると内容が魅力的で、それでビビりました(笑)。新しい大学で学生数は少なかったですが、先輩・仲間、そして釧路の素晴らしい環境の中、充実した学生生活を過ごすことができ、とても満足しています。

在学中で特に思い出に残っていることは、氷都釧路でアイスホッケーに出会い、部活動に熱中したこと。部活動とアルバイトを両立しながら4年間続けられたことは、自分でもよく頑張ったと思います。

現在は、北海道職員として日高振興局林務課で働いています。ここでは北海道における「一般民有林」といわれる森林の山づくりや、保全に関する業務、また、木材産業の振興や森林組合等の育成指導などを担っております。現在は、係長としての立場上、常に先を見て、上下左右のコミュニケーションにより情報をキャッチし、積極的に組織を動かしていくことを心がけています。

大学での4年間は社会人になって役立つことが多くあります。それは、学業に限らず、サークル・ゼミ・アルバイトでの経験も然りです。社会人に比べて自由な時間を持つことができる今、興味を持ったらまずチャレンジしてみてください。様々な人との交流は、きっと将来の財産になります。そして母校を誇りに思い、母校への愛を忘れずにいてください。



沼田 和代さん(旧姓 佐藤)

卒業年／平成7年(第4期)
勤務先／日本生命保険相互会社
札幌支社 札幌法人市場営業部
支部長補佐

運命を感じ入学した大学で 素晴らしい仲間と出会えた

私は東北の出身で、センター試験直前まで釧路公立大学という名前すら知りませんでした(笑)。しかし、センター試験受験後、二次試験で挽回可能な点数配分の大学を探した中、当時C日程だった釧路公立大学を発見し、「ここだ!」と運命を感じ急遽志望校に選定し、合格に至りました。

入学してみると、釧路管内、道内出身者を中心に、東北から九州まで幅広く学生が集まってきていました。釧路は住み心地がよく、自分らしさを出しつつ成長できた4年間だったと思います。在学中はファストフード店で3年間アルバイトをしていて、サークルのようによく皆と集まっていました。ゼミでは3ゼミ合同で旅行をしました。今でも年賀状でつながっている方々もいます。

バブル崩壊後、特に女子には厳しい時代の就職活動の中、女性が活躍できる職場を第一に考え、現在の会社に入社し、23年目となります。新卒採用にも携わり、釧路公立大学の学内説明会にも参加させていただいたこともあります。結婚、出産を経て、現在は20代~50代まで幅広い年齢層の方の育成を行っています。

私がいた当時は、まだまだ知られていない大学でしたが、最近では道内外でも知名度も上がり、地道にコツコツと社会に貢献できる学生が多いという印象を持っていただけているように思います。30周年を機に、さらに釧路、北海道の発展の担い手として、様々な角度から関わりを持っていただけたらと祈念しております。



山本 美希子さん (旧姓 種)

卒業年／平成9年(第6期)

勤務先／東日本電信電話株式会社(東京都)
ビジネス開発本部 課長

「新たなものへの挑戦」に惹かれて

私が入学した当時、この大学が先進的だったのは「複数自治体の事務組合によって設立された日本で初めての大学」という点でした。大学という新たな装置は地域経済に好影響を与え、発展の一助となり得るのかというチャレンジングな役割も担っていたものと理解しています。

ビジネスパーソンになって学生時代の学問が本当に役立ったなど感じているのは「マクロ経済とミクロ経済」という視点です。全ての企業・組織は、世界情勢の大きな変化をいち早く感じ取り、自分たちの事業をどう変革していくか、こういったマクロ経済的な視点に立って未来を創造して行く。一方、ビジネスは日々の収支がしっかり成り立っていなければ、未来など絵に描いた餅です。目の前のお客様ニーズに応えるため、限られたリソースを駆使して継続的な利益を出し経済循環を造る。これがミクロ経済だと思っています。学生時代の様々な教科やゼミでの学びを通じ、この両輪の視点を身につけられたことに感謝しています。

現在、私は、IT系の新サービス・新規ビジネスの企画開発をしています。特に最近ではAI技術を使った新サービスをスタートさせました。

プライベートでは夫と中学3年の息子との3人暮らしです。息子がいてくれたおかげで、仕事が辛い時には何度も救われましたし、仕事のおかげで、子育ての悩みを客観的な視点で乗り越えることができました。どちらも切り離せないかけがえのない私の人生です。今の時代の女性は、結婚未婚、子供の有無、親の介護など、人によって選択肢も環境も実に様々です。働く女性一人一人が、納得感ある人生を過ごせるようサポートしながら、これからも仕事に夢に、挑戦続けます。



天野 大輔さん

卒業年／平成11年(第8期)

勤務先／小樽商科大学
商学部経済学科 准教授

社会が求める人材の育成を

私が釧路公立大学に進んだ理由は、両親が退職後に北海道への転居を決めていたからでした。釧路での学生生活においては、静かな学習環境と比較的新しい設備の下で勉学に集中できたと思っています。

在学中の思い出として印象に残っていることは、ゼミのイベントで卒業前に網走に旅行したことです。残り僅かな学生生活を満喫することができました。

大学生活でやり残したと思うことは、より専門性の高い応用経済学の科目だけでなく、英会話の勉強もしておけばよかったということです。特にリスニングの大切さを感じています。

現在、私は小樽商科大学商学部経済学科で教鞭をとっています。釧路公立大学を卒業した後、北海道大学大学院経済学研究所に進学して研究を重ね、最終的には継続的に学んだ経済学の専門分野に関する研究職に就くことができました。小樽商科大学では、専門分野の研究活動、授業やゼミを通じた学生の指導および大学運営に関する各種委員会への参加を主な業務内容として、これらに対して並列して大学に貢献したいと思います。

この度、開学30周年を迎えられた釧路公立大学には、いわば道東の地方中核都市の「知」の拠点として、変化の激しい社会の要請(social demand)に対応できる人材の育成を継続してほしいと期待しております。



浦 達也さん

(写真左)

卒業年／平成11年(第8期)
勤務先／公益財団法人日本野鳥の会
(東京都) 自然保護室 主任研究員

釧路の豊かな自然に魅かれ 野鳥研究のスペシャリストに

釧路公立大学は、大学の近くに豊かな自然環境、特に有名な湿原(釧路・別寒辺牛・霧多布等)がたくさんあり、札幌出身の私はだんだんと道東の自然の素晴らしさに気付き、タンチョウやオオワシなどの野鳥を観察するようになりました。ゼミでは、環境教育について研究、卒業論文を書きました。そのような経験から、自然や野鳥に関わる仕事をしたいと思うようになり、実現させました。そして、今も湿地や草原の野鳥を中心に保護活動や研究を行っています。

在学中は、アメリカンフットボール部の活動に熱中しました。決して強いチームではありませんでしたが、部活動を通じて、大学の友人とは別に先輩や後輩と学生時代の時間を共有できたことは今も財産です。北海道学生オールスターに選出され、大きな競技場で試合できたことも学生時代のよい思い出です。

私は日本野鳥の会に入局以来、ずっと自然保護室という部署で、自然保護活動を行っています。2年前から、主任研究員を拝命し、今後は、日本野鳥の会の中でも調査研究のスペシャリストとして、特に外部に対し調査研究の成果をアピールしていくことが求められていると思います。

大学には、自然豊かな釧路地域の特色を生かし、また環境の時代ということもあり、もっと環境分野について学べる科目を増やしてほしいですね。可能であれば、数十人規模でも環境学科等を増設することを期待します。



富永 享志さん

卒業年／平成13年(第10期)
勤務先／株式会社柳月
販売営業部 札幌地区 課長

地域経済への継続的貢献を

私は将来、就職するにあたり経済学部がよいと考え、また、学費の面も考えて国公立大学を志望していました。幼少期に釧路に住んでいて、釧路に対して懐かしい思いもあり、釧路公立大学を志望しました。在学中、特に思い出に残っていることは2年間のゼミです。担当の萩原充教授には、今でも会いに行きます。ゼミ合宿、ディベート、卒論の苦労など数多くの思い出があります。

今思えば、簿記は資格を取るくらい勉強しておけばよかったと思っています。それに経済用語をしっかりと勉強しておくべきでした。社会人になってから、用語の意味がわからず苦労したことがありました。

私が勤務している柳月は、日々100種類以上のお菓子を製造販売しています。現在、新商品・季節限定イベント商品・販売促進対象商品の札幌地区分(地区内21店舗)の発注計画数立案・納品調整・売場調整を行う部署にいます。いわゆる、社内バイヤー的役割です。会社として力を入れて売りたい商品を、各店舗にて最大限販売してもらうために、計画・実施・調整をしています。直接売上に関わる仕事なので、とてもやりがいを感じております。

釧路公立大学は「公立」という立ち位置から、地元地域経済に貢献する教育機関であり続けてほしいと思っています。地元企業とのコラボレーションによる、新市場の開拓・新商品の開発を発信できる大学になると、とてもうれしいです。

卒業生インタビュー 11～20期



柴田 純宏さん

卒業年／平成18年(第15期)

勤務先／ホクレン農業協同組合連合会 管理本部(札幌市)
(平成29年8月から伊藤忠シンガポール会社へ出向)

オートバイツーリングで日本縦断の旅

私は札幌市の出身で、道内にある国公立大学ということで、釧路公立大学に進みました。入学してみると、釧路出身の学生が少なく、外から来た人たちは、皆一人暮らしや下宿をしていたため、新しい環境に馴染んだり、一から人間関係をつくることに懸命でした。月日が経つにつれ、友達や先輩、後輩が家族のような関係になり、強い絆で結ばれていたことが今でも私の財産になっています。釧路は大自然に囲まれた地域であるため、伸び伸びと生活ができました。また、冬の星空がとても綺麗だったことを今でも覚えています。

在学中はオートバイにのめり込み、特に大自然を感じるツーリングが大好きで、大学2年生の時に一人で日本縦断の旅をしました。3年生の時には、ツーリングの素晴らしさを共有したい、伝えたいという想いが強くなり、二輪会というサークルを設立しました。そこでの部長としての経験は、今でも自分の中の根底にあり、とても大切な思い出です。サークルメンバーとは今でも連絡を取り合う仲であり、よい刺激になっています。

現在、私は、ホクレン農業協同組合連合会で、北海道産の農畜産物やそれを原料とした加工食品を海外へ輸出する仕事に就いています。平成29年8月よりシンガポールに駐在し、実際に現地生活しながら、マーケットリサーチと北海道産商品の販路拡大に向けての業務を行っています。

普段、ビジネス上で釧路公立大学の卒業生に会うことはそう多くはありませんが、きっと多くの卒業生が全国各地の幅広い分野で活躍されていることでしょう。同業種、異業種を含め、同じ大学の卒業生のつながりは非常に貴重なネットワークです。大学にはもっと卒業生同士をつなぐシステムなどがあると非常によいと思います。そういったサポートを大学に期待します。

社会人になると、人とのコミュニケーションはより複雑になってくるとおもわれます。私は思い悩むこともありましたが、その度に大学時代の友達に救われました。また、在学中に仲がよい友達と卒業してから仲がよい友達は必ずしも同じではありませんので、在学中にかけがえのない友達を幅広くつくってください。



ライダーハウスにて



寺岡 広実さん (旧姓 門脇)

卒業年／平成15年(第12期)
勤務先／北海道警察
札幌方面厚別警察署
交通第一課

組織と市民の架け橋に

東北から来た私にとって、大学生活は、生まれ育った環境や年齢も異なる人と一緒に学び、ふれあうことで自分のアイデンティティがどのようなモノなのか改めて認識させられる機会を与えてくれました。その後の就職活動や社会に出てからも生かすことができたいと思います。

特に、ゼミで共に学んだ仲間とのディベートは思い出深いです。各個人の主義主張は別として、2グループに分かれてテーマに対しチーム戦で論じ合ったことは貴重な経験となりました。自分の立場や主張だけでなく、相手の主張やその背景も理解してこそ、論点に對した上手な切り返しができるのだと学びました。

現在、私は北海道警察で交通に関する業務をしています。組織人として組織に貢献することはもちろんのこと、組織の力で市民が安全・安心に暮らせることに寄与していると信じてまい進するのみです。警察官には今、組織と市民の架け橋となるよう、市民の声を吸い上げ、組織に反映させるように主体的活動が望まれていると思います。

釧路公立大学が開学30周年を迎えられ、卒業生が今後ますます活躍し、管外や道外の人にも広く認知してもらい、さらに大学が発展していけるよう願っています。私たち卒業生が大学で学んだことをそれぞれの地域で生かして、それを盛り立てていきたいです。



鈴木 圭介さん

卒業年／平成15年(第12期)
勤務先／鈴木圭介税理士・行政書士事務所
(釧路市)

起業するきっかけを与えてくれた

当時私は、社会科の教員志望で、地元の教職課程の取得できる大学で教員を目指そうと、釧路公立大学に進学しました。

大学に入学して、経済や経営、経理や税務の専門の学問を学ぶこととなり、その分野に惹かれ、今の職業を志す契機となりました。

また、私を支えてくれた多くの仲間や大学の教授、大学ではたくさんの人に出会えたことが、今の私の大きな財産となっています。

学生生活で特に思い出に残っていることは、部室で正月早々から勉強したこと、大学祭の出店コンクールで優勝したことの二つです。

現在、私は、自身で立ち上げた税理士・行政書士事務所で、地元企業の健全経営に関するサポート役として働いています。地域に密着した仕事に就き、釧路公立大学の卒業生として、地元に貢献できていることを誇りに思います。

後輩の皆さんの可能性は無限です。学生時代で得ることを大いに吸収して、社会に貢献する人材として活躍されることを応援しています。



佐々木 洋平さん

卒業年／平成17年(第14期)
勤務先／釧路町議会議員
韓国語講師

人生の転機となった韓国留学

私は地元が厚岸町尾幌で、自宅から通学するのに便利というのが理由で釧路公立大学へ進学を決めました。当時は、都会に出たいという考えや、釧路を離れなければ学べないという理由もありませんでした。厚岸の自宅から車で通学していたために、夜はなかなか友人と出歩くことができませんでしたが、ときどき友人のアパートに転がり込んで遊んでいました。

大学では、他地域から来た向学心の高い友人に出会えたことで、私自身大きな刺激を受け、講義に向き合う姿勢が変わりました。特に、私の大きな転機となったのは、交換留学制度を利用した韓国留学での様々な「人の考え方」との出会いでした。寮生活では韓国人、中国人、ロシア人と私の4人暮らしで、学生たちと様々な議論をすることで、外から見た日本を知ることができました。

現在、私は留学経験を生かし、韓国語講師として語学教室を運営しています。また、釧路町議会議員として現在2期目の若手議員として、地域を盛り上げるために様々な活動をしています。

釧路公立大学には、大学の特徴でもある「地域を理解し、地域の可能性を探求する」のさらなる実践を期待し、社会に出て「地域のために」と考える学生たちがより多く輩出されますことを願います。ぜひ、釧路地域の目線で社会・世界を見つめてください！



中山 雄介さん

卒業年／平成18年(第15期)
勤務先／鹿島道路株式会社
中部支店 名古屋営業所(愛知県)

学生生活を通じ成長できた4年間

私は愛知県出身で、大学はぜひ北海道で学びたいと考え、釧路公立大学を受験しました。釧路公立大学に進学して一番よかったと思うことは、アイスホッケーというスポーツに出会えたことです。アイスホッケー部に所属し、釧路ならではのスポーツに打ち込めたのは、自分にとってとても有意義な4年間でした。

また、在学中、二輪会サークルを設立し、ツーリングを通じて北海道の魅力を再発見できたこと、かけがえのない生涯の仲間ができたことも私の大きな財産の一つです。

釧路では、初めて一人暮らしをしたのですが、不自由な生活を体験して、これまで育ててくれた両親へ感謝の気持ちを持つことができました。大学では体育会会長を務め、人をまとめることの大変さを学べたことで、人間として成長できたと思います。

現在私は、学生課から紹介いただいた、鹿島道路株式会社名古屋営業所にて勤務しております。建設業の営業マンの業務範囲は大規模公共工事から私道・駐車場舗装など様々です。顧客拡大、既存取引先維持、取引の遠のいた休眠企業の再取引を主軸として行い、目標数字に向かい受注高の確保に努めます。現在建設業界は全体として若手が少なく、将来の管理職として活躍することを期待されています。

後輩の皆さんには、学業に限らず、遊び・自然観賞・サークル・ゼミ・アルバイト等、今しかできないことに全力を尽くしてください。



深井 昭さん

卒業年／平成19年(第16期)

勤務先／株式会社釧路内燃機製作所(釧路市)
経理部

やれることは何でも挑戦!

釧路公立大学に進学したのは、親や高校の担任に「大学へ行け」と勧められたのと、自分の中では高校卒業後も釧路管内から出る気がなかったからです。それでも進学してみると、いろいろな経験ができ、充実した学生生活を送れました。進学したことで今の自分があり、振り返ると、その当時高校卒業後は就職という考えしか持っていなかった自分に、進学を強く勧めてくれた親と担任には感謝しかありません。

しかし、学生生活はあまり真面目だったとはいえ、ほぼ毎日パチンコ屋に行っていましたね。おかげさまで金銭に不自由なく学生生活を送れました(笑)。そのため、いろいろなことに挑戦でき、様々なモノを得ることができました。突然友達と札幌方面へ日帰りドライブをしたことなどは楽しい思い出です。

現在、私は株式会社釧路内燃機製作所の経理・総務の部署で、資金繰りや各種手続きを行っています。自分自身の最大の使命は自分が退職するまでに、資金の管理をしっかり行うことだと思っています。

今思えば、大学で株・投資・保険・税金等の知識を学んでおけばよかったと思いますね。こうした生きた知識は世の中に出ると役に立つことが多いですから。

最後に、後輩へは、勉強も大事ですが、それ以外のことをもっと大事に、サークル・アルバイト・遊び・旅行等、やれることをたくさんやってほしい。大学時代にいろいろな経験をすることが社会人になったときに必ず生かされます!



津島 梨恵さん

卒業年／平成20年(第17期)

勤務先／イオンリテール株式会社
イオン三好店(愛知県)

自分を成長させた学生新聞づくり

音更町出身の私には、車で2時間ほどの釧路は、とても身近な存在でした。高校入学時から「大学は釧路で勉強したい」という思いがあり、社会学系の授業が好きだったのも釧路公立大学を選んだ理由の一つです。

釧路は、夏は暑い日でも25度前後ですし、冬の雪もそれほど多くはありません。私は今、愛知県で仕事をしていますが、この地域特有の夏は暑く冬寒い、両極端な気候の中で生活していると、釧路の気候が懐かしくなります。

学生生活の一番の思い出は、3年生の時に立ち上げた“学生新聞局の活動”です。学内問わずたくさんの方と交流できたので、社会人になる前の準備という意味で、とても勉強になりました。局員全員が「1部でも多く新聞を発行する」という同じゴールを目指し、お互いに刺激を受けながら成長できたと思います。

私は現在、イオン三好店で、寝具やインテリア用品を扱う、ホームファッションのマネージャー代行をしています。お客様と接する売り場業務だけでなく、売り場のマネジメントも任されているので、大学時代に学んだことが生かしています。上司からは「さらに広い範囲を管轄できるようになると、自分のためにもなるよ」と言われていて、私もその期待に応えていけるよう頑張っています。

卒業生インタビュー 21～26期



川村 彩歌さん

卒業年／平成26年(第23期)

勤務先／ANA新千歳空港株式会社(千歳市)

グランドサービス部ラインハンドリング課

大好きな仲間と過ごせた4年間

大学進学にあたって、私立はお金がかかるので、札幌出身の私は道内の国公立がいいなと思っていました。経済・経営学に興味があり、特に経営学は社会に出ても役に立つことが学べると思い、高校の先生に相談したところ、先輩が釧路公立大学に通っていたこともあり、周りからも勧められ進学を決めました。

入学間もないころは、全国各地から学生が集まってきていて、いろいろな方言が飛び交っていて、とても新鮮でした。釧路公立大学に入学して一番よかったことは、人に恵まれたことです。入学してすぐに知り合った友人たちとはよく気が合い、一緒にいるのが楽しくて、授業も皆で集まって受けたり、課題をやったり、授業以外にも学内でおしゃべりをしたりしていました。

最初の2年間は下宿で生活していました。優しい先輩たちばかりで、大学祭で出店を出したり、遊びに連れて行ってもらったり、勉強も

教えてもらっていました。また、ゼミのメンバーにも恵まれて、ゼミの終わりにはよく打ち上げにご飯に行きました。

釧路は新鮮な魚介が多く、それもおいしいものばかりです。花粉症にも悩まされないのにおすすめです！唯一悪かったことは、冬は寒すぎて、油断をすると水道管が凍結するところです。朝、寒くて布団から出られず、何度、1・2限目の授業をさぼろうとしたことか(笑)。

サークル活動は仲のよい友人に、半ば強引に軽音楽部に誘われて入部しました。2年生になってから、その友人と1年下の後輩と3人でガールズバンドを結成して、3人で盛り上がっていました。今でも連絡を取り合うくらいの仲よしで、あの時軽音楽部に誘ってくれた友人には感謝しています。

現在、私はANA新千歳空港株式会社グランドサービス部ラインハンドリング課という部署にあり、航空機の誘導や貨物・手荷物の搭降載、航空機の除雪、国際線キャリアのハンドリングなど、到着から出発までのすべてのハンドリング業務を行っています。最近では機長とヘッドセットと呼ばれる機器を使って連絡をとる、ヘッドセットオペレーターという業務も任されています。また、7月から航空機を出発する際に、自走できる位置まで持っていく、プッシュバックという作業の訓練が始まりました。プッシュバックはハンドリングの中で最も難しいですが、憧れの仕事なので一人前になれるよう頑張っています。

釧路公立大学の先生方、キャリアセンターの方、学生課の皆さんは本当にいつでも親身になって相談に乗ってくれます。授業のこと、生活のこと、就職活動のこと、不安なことがたくさんあると思います。一人で悩まずに、まずは相談してみてください。私はよく学生課の方に泣きついていました(笑)。

また、1・2年生のうちは難しいかもしれませんが、何か一つでも目標をもってほしいですね。ぜひ、自分が満足できる学生生活にしてください！



ゼミ集合写真(前列右から二番目)



鳩山 ちひろさん

卒業年／平成24年(第21期)
勤務先／北海道釧路明輝高等学校(釧路市)

多くの友人との出会い 何気ない日常がよい思い出

私は群馬県の出身で、幼い頃から両親に旅行で北海道に連れてきてもらっていて馴染みがあったのと、身近な先生が釧路公立大学の卒業生だったこともあり、この大学への進学を決めました。釧路がどこにあるかもわからないまま進学を決めましたが、私には運命のように感じました。新しい生活にわくわくしたのも鮮明に記憶しています。

釧路公立大学では、多くの出会いがありました。今ではそれぞれ地元や首都圏に離ればなれに暮らしていますが、今でも仲がよく、時間をつくって会っています。在学中、一番熱中していたのは、女子アイスホッケー部での活動です。スケートをやったことがない初心者で、大変なこともたくさんありましたが、全国大会にも出場し、釧路で開催された際には運営も行い、多くのつながりができました。

就職では、教授だけでなく学生課の方にも大変お世話になりました。私は一度就職した後に退職・転職しました。その時、教授の支援がなかったら人生に失望して、今頃どうなっていたか…(笑)。

現在、私は北海道釧路明輝高等学校で地歴・公民科の教員として働いています。受け持つ授業は毎年変わりますし、担任業務もあります。学校のみならず、保護者の方や地域の方からも期待されていると感じ、日々業務に当たっています。

今日のような予測不能な時代を、これからの未来を担う生徒たちには、たくましく生きてほしいと願い、また、よりよい社会にすべく、立派な社会人になってほしいです。私のような社会科の教員は、そうした生徒を育てる重要な役割を担っていると思います。



佐藤 照智さん

卒業年／平成26年(第23期)
勤務先／福島県相双農林事務所
企画部
(福島県農林水産部出先機関)

被災地の復興に向け頑張っています

釧路公立大学が開学30周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

私は生まれも育ちも福島県で、縁があって釧路公立大学に進学しました。大学在学時は、準硬式野球部に所属し、全国大会を経験しました。また、教職課程を履修し、母校での教育実習に行きました。あるいは、友人たちと厚岸の牡蠣祭りや阿寒湖、知床に行ったりと、たくさんのよい経験をさせていただきました。

やはり、私の進路に一番の影響を与えたのは、東日本大震災及び原子力発電所事故です。福島県出身として、福島県の復旧・復興に携わりたい一心で、福島県職員の道を選び、今まさにその現場で働いています。私が現在所属している福島県相双農林事務所は、福島県の太平洋沿岸部の相馬地域と双葉地域の農林業の復旧・復興そして振興を担う事務所です。ここで私は、農業の6次産業化や風評払拭に向けた取組に関わる仕事を主に担当しています。私の力は微々たるものですが、少しでもこの地域が元気になるように、日々業務に励んでいます。

最後に、釧路公立大学に在学する皆様には、長いようで短い大学生活を有意義に過ごしていただきたいと思います。そのためには、まず、いろいろなところに出掛け、体験したり、新しいことにチャレンジしてみてください。今はインターネットで検索すれば様々なことを知ることができますが、実際に行ってみて、やってみて、初めて知ることや感じるものがたくさんあります。「百聞は一見に如かず」です！



佐々木 凌平さん

卒業年／平成26年(第23期)
勤務先／株式会社東北銀行
花巻支店(岩手県) 渉外課 書記

震災の中、手を差し伸べてくれた大学

進学にあたっては、国立大の経済学部を目指していましたが、進学も間近というところで東北全域が大きな震災に見舞われ、進学を悩む中、最初に支援の手を差し伸べていただいたのが釧路公立大学でした。おかげで、何不自由なく入学までたどり着くことができました。

他県から来た私にとって、北海道はもとより、釧路は新鮮な地でした。特に食生活には大変恵まれ、10キロも体重が増えてしまいました。

在学中、特に思い出に残っていることはゼミでの活動です。同じ事を学びたいと集った仲間たちと、課題を持ち探求していくことがよりよい学びになりました。反面、在学中にやり残したと思うことは、もっといろいろな所に行っておけばよかったです。自由な時間がある分、国内だけでなく外国にも行って、普段はできない体験しておくべきだったと思います。

現在私は、東北銀行花巻支店渉外課で勤務しています。個人・法人問わず多くのお客様を訪問し、預金や融資、資産運用と様々なご相談に対応させていただいています。お客様との会話の中から要望を聞き出し、お客様の意向に沿った仕事ができるよう日々努力しています。

最後に、後輩の皆さんには、自由な時間がある学生生活を謳歌してほしいですね。勉強はもちろんですが、いろいろな場所を訪ね、触れ合うこと、そこでの体験を大切にしてください。そうすることで価値観が広まり、人として成長できると思います。



佐藤 雄紀さん

卒業年／平成27年(第24期)
勤務先／北海道旅客鉄道株式会社 釧路駅

地域のために活躍できる人に

私は当時、地元の大学で学びたいという思いが強く、また、経済についても興味がありました。地域の方々に支えられている釧路公立大学で学び、そこで経験したことや学んだ知識を生かして地元で貢献したいという気持ちをもって進学しました。

学生数もそう多くはない大学でしたので、友人との繋がりを広く深いものに築き上げることができました。アウトドア好きの私は毎年、夏休みの恒例のキャンプをはじめ、いろいろなところに行きました。夜中まで騒いで怒られたこともあり、苦い思い出の一つでもあります。

現在は、JR釧路駅にてお客様に切符を発売する出札業務や、改札業務、電話対応等の内勤業務を行っています。まだ入社3年目ですが、釧路駅は若手社員が多く、指導する場面が多くなってきました。自分自身まだまだ勉強中ですが、今まで学んだことや経験したことを後輩たちに伝え、指導することが私に求められていることだと自負しています。

後輩の皆さんには、大学が地域の方々に支えられていること、また、その大学で自分の学びたいことを4年間学べる立場にいるということを忘れないでほしいと思います。社会に出たとき、強く求められる人材になれるよう、毎日を大切に充実した大学生活を過ごしてくださいね。



早苗 杏莉さん

卒業年／平成27年(第24期)
勤務先／株式会社北洋銀行
千歳中央支店(千歳市)

大学での出会いや思い出は一生の宝物

私が釧路公立大学に進んだ理由は、経済学の専攻を希望していたことと、経済の単科大学なのでより専門的な知識を身につけられると考えたからです。また実家の帯広からもそう遠くないことも選んだ理由のひとつです。

振り返ると私の大学時代は、人に恵まれた学生生活だったと思います。学生数も少なかったので、学内を歩いていてもほぼ全員が顔見知りでしたし、ゼミ、サークル、その他にもたくさんの友人の輪を作ることができたと思います。教授や学生課の方との距離も近かったです。よく研究室にもお邪魔していましたし、親身に相談に乗っていただきました。

釧路は、札幌のように遊ぶ場所やお店はそう多くありませんが、自然や美しい景色を巡るドライブなどはとても楽しかったですね。また、ゼミでは組織行動論というテーマで、人を媒体としたPR活動を学内で行い、地元釧路の飲食店の売り上げにも貢献できたのではないかと考えています。

現在、私は北洋銀行千歳中央支店に勤務し、融資業務を担当しています。入行して3年目になりますが、これまで営業課、資産運用に関わるコンサルティング課とさまざまな経験をさせてもらっています。銀行の仕事は、入行前は事務的なイメージが強かったですが、実際働いていると、お客様とのコミュニケーション力や提案力など、いろいろな能力が求められるのだと感じます。

大学での出会いや思い出は一生の宝物になります。ぜひ多くの人に出会って、様々な感性に触れて、いろいろな場所へ行って、たくさんの経験をしてください。それを存分にできるのが、大学の4年間だと思います。



矢萩 樹さん

卒業年／平成29年(第26期)
勤務先／株式会社ドーコン(札幌市)
環境事業本部環境保全部

自然あふれるフィールドで研究に熱中

私が釧路公立大学に進みたいと思った理由は、大学案内のパンフレットで興味深い研究室が紹介されていて、ぜひここで勉強してみたいと思ったからです。道内出身の私にとっても釧路は海や川、湿原などの特徴的なフィールドが近く、自然が好きな私には最高の環境でした。大学で過ごした4年間、卒業研究を含めて、鳥類の調査や研究に熱中できたことが一番の思い出です。

現在は、株式会社ドーコンという札幌にある総合建設コンサルタント企業で、主に公共事業に関わる環境調査業務に携わっています。会社から期待されていることは、技術者として、専門である鳥類を中心とした野生生物と人間が共生できる社会を目指していくことだと思っています。

ゼミ担当教員から



釧路公立大学経済学部長
小林 聡史 教授

矢萩くんは、私のゼミの直近の卒業生で、特に優秀な学生でした。ゼミに入る前から存在感があり、講義で鋭い質問をしてきたりして、私も少し緊張した面持ちで講義に臨んだことを覚えています。卒論も100頁を超える超大作で、しっかりと調査し、ほとんど直すところがありませんでした。北海道を代表するコンサルタント企業に、難関を突破して入社されて、今後ますます活躍することを願っています。

地域と歩んだ「^{しるべ}標」

釧路公立大学は、釧路管内の市町村による一部事務組合方式により、地域分権時代の先駆者として、地域が自らの力で開学した大学です。昭和63年にその歩みをスタートしてから、7,500名を超える卒業生を輩出してきました。

建学の理念である「地域に結びつき開かれた大学」「国際性を重視する大学」「理論と実践の相まった大学」をキーワードに、地域と密着した研究活動、地域の人々との交流、ボランティアなどの地域貢献、様々なスポーツ・文化活動など、本学の取組と学生の活躍をご紹介します。





地域経済研究センター

～地域と歩んだ「^{しるべ}標」～

★ インタビュー

interview

地域経済研究センター長 佐野 修久 教授

地域のシンクタンクとして18年

地域経済研究センターは、平成11年6月に開設されて以来、「地域に結びつき開かれた大学」の理念に基づき、社会科学系研究機関として、また地域のシンクタンクとして、地域の持続的発展に積極的に貢献するための地域研究と情報発信等に努めています。私は平成24年4月に2代目のセンター長に就任し、6年目になります。



地域研究の水先案内人として

地域経済研究センターでは、地域の現状や課題の検証、地域課題の解決や地域の活性化に向けた方策、地域の実態を踏まえた創造的な政策のあり方等についての研究を、テーマ毎に「共同研究プロジェクト」を組成する形で進めています。単に研究するだけにとどめず、その結果が政策の形成や事業の実現につながるよう努めています。また、この共同研究プロジェクトに積極的に地域の人々が参加することによって、研究の過程で得られた知識・経験が地域の資産として残り、地域の人材育成につながることも目指しています。当センターはプロジェクト全体をリードし、コーディネートする役割を担いますが、課題解決に向けたプロセスや手法のヒントを、研究スタッフに提示し、研究員自らが力をつけていくよう、水先案内人のような役割ができればいいと思っています。

平成28年度までに延べ325名が客員研究員として参加し、48件のプロジェクトを実施してきましたが、最も大きな役割を果たしたのは釧路市との共同研究プロジェクト「釧路市の自治体経営のあり方に関する研究」ではないかと思っています。これは蝦名市長も参加し、今後の釧路市が向かう都市経営の方向を議論し提言したもので、釧路市が策定した「釧路市都市経営戦略プラン」（市役所改革プラン、財政健全化プラン、政策プランから構成）につながりました。

また、この都市経営戦略プランで重要な位置付けを担う、公有資産マネジメントの推進（釧路市における公有資産マネジメントのあり方に関する研究）、釧路市に適した市民ファンドの仕組みである「くしろ応援ファンド」の創設（釧路市における市民ファンド構築に関する研究）、市と民間主体が連携して公共を担う公民連携の推進（釧路市における公民連携のあり方に関する研究）などについても政策提言を行い、都市経営戦略プラン推進をバックアップしています。



卒業生が共同研究プロジェクトの一員に

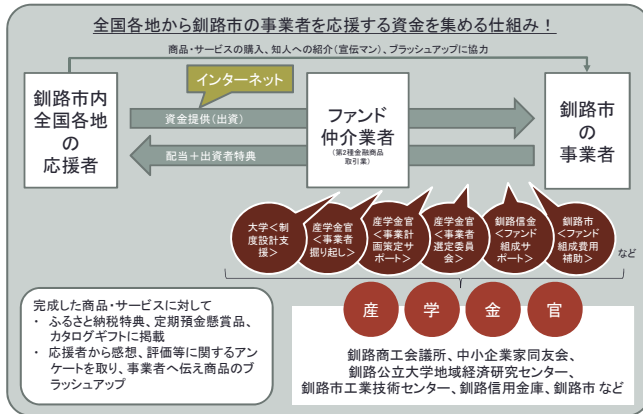
釧路公立大学は、釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、白糠町の釧路管内8市町村により構成される一部事務組合であり、当センターは、「地域に結びつき開かれた大学」を実践する場として、より一層これら地域に貢献していきたいと考えています。地域の未来を創造することにつながる研究を進めるとともに、地域と連携し経営感覚に富んだ人材の育成・底上げを図っていききたいと思います。釧路公立大学の卒業生が社会人となり、将来、共同研究プロジェクトの一員として一緒に地域のことを考える。そんな地域の要の場所として発展していくことができればと期待しています。

センターの主な活動内容

共同研究プロジェクト(事例紹介)

● 釧路市における市民ファンド構築に関する研究

地域資源を活用した釧路の事業を応援するために、釧路市内はもとより全国各地の方々から小口の資金を提供いただく釧路市らしい「市民ファンド」の仕組みを検討しました。



共同研究プロジェクトから実現した「くしろ応援ファンド」の概要

● 釧路市における地場産品振興のあり方に関する研究

釧路市における地場産品振興にかかる取組の現状と課題を明らかにした上で、今後釧路市で求められる地場産品振興の方向について検討しました。

● 弟子屈町における公共施設マネジメントのあり方に関する研究

「公共施設等総合管理計画」の策定を見据え、弟子屈町における公共施設等の現状と課題について明らかにするとともに、今後の基本的なマネジメント方針について検討しました。

● 釧路市における公民連携のあり方に関する研究

釧路市が「都市経営」を進めていく上で重要な視点となる、市と民間主体が円滑に連携する「公民連携」を推進していくための基本的な考え方について検討しました。

地域へ発信／フォーラム・セミナー・講演会の開催

地域経済研究センターでは、地域の課題を考え、解決していく上で参考となるテーマを取り上げ、外部から有識者を招いたフォーラムやセミナーを開催するなど、地域の方々に対する積極的な情報発信にも努めています。

● 地域経済セミナー

「リノベーションによる居心地のよいまち空間の形成」平成28年7月
くしろリデザインプロジェクト・ユニットとの共催により、香川県高松市の仏生山地区において、まち全体を旅館に見立てて空家等のリノベーションを行い、居心地のよいまち空間づくりを進めている取組の紹介や魅力的なまち空間を作り上げていくためのポイント、留意点などについて考えるセミナーを開催しました。

● 地域経済セミナー

「〈消費者の声〉を収集し、商品開発に活かす」平成29年2月
くしろ創生プラットフォームとの共催により、地場産品の振興を図っていく上で大切な消費者ニーズを把握するための多様な手法とそれを反映した商品開発や販路拡大等について紹介いただくセミナーを開催しました。



地域との協働／まちなかの活性化をめざす市民活動を支援

平成27年度から、釧路市中心部に多数存在する空きビルや空室を資源ととらえ、それをリノベーションすることで新しい事業を起こし、まちをかえていこうという市民活動団体「くしろリデザインプロジェクト・ユニット」と協働し、釧路市のまちなか再生を図る取組を支援しています。

釧路公立大学附属図書館

～地域と歩んだ「しるべ標」～

★ インタビュー

i n t e r v i e w

附属図書館長 **白川 欽哉** 教授

蔵書数23万冊超、地域にも開かれた図書館

本学附属図書館が所蔵する23万冊を超える蔵書は、経済・経営関連の専門書はもとより、文学、歴史、哲学、自然科学、言語、技術、芸術、郷土資料、雑誌など、あらゆる分野を網羅。全国公立大学平均蔵書数11万3,000冊を大きく上回っています。蔵書数は毎年平均7,500冊のペースで増え続けており、平成17年には書庫と閲覧スペースを増築し、その変化に対応してきました。この蔵書増は、本学と附属図書館を「道東の知の拠点」の一つとして位置づけてきた本学事務組合の八つの釧路管内市町村、同窓会、後援会、そして地元企業に支えられています。

蔵書の利用はすべて開架方式で、利用者は直に手に取って本を選ぶことができます。また、PCの館内貸出も行っています。さらに本学教職員や学生のみならず、学外者の図書館利用も可能で、研究・教育環境の充実と「地域に開かれた図書館」という二つの課題に対応すべく尽力しています。

館内を回ると、講義やゼミの準備、採用試験、資格試験の勉強、卒業研究などに勤しむ学生、雑誌コーナーでくつろぐ学生、専門書や文芸書を借り出している学外者、多数の専門書を抱える教員の姿を見かけます。インターネットの普及により、そうした図書館の「風景」が変わる日が来るかも知れません。新しい時代に対応可能な図書館。それが今後の課題です。



地域に出向き・地域から受け入れる

～地域と歩んだ「しるべ標」～

公開講座の開催

本学では「地域に結びつき開かれた大学」の理念を具体化するために、教員が地域に出向き、研究成果を発表する機会を設けています。地域住民に大学の知的資源を公開し、住民の知的関心を触発するという公開講座の基本理念の下、平成2年以降毎年、本学の専任教員が講師となり、本学と釧路管内の各自治体を会場として、4講座を開催しています。これまでの受講総数は、5,243名となります。

科目等履修生・聴講生の受け入れ

科目等履修生とは本学の学生以外の者が単位修得を目的として授業科目を受講する者をいい、聴講生とは単位取得を目的とせず受講する者をいいます。

平成29年度までに、科目等履修生はのべ83名、聴講生はのべ56名が釧路公立大学で学びました。

北海道学生研究会SCAN

～地域と歩んだ「標」～

北海道学生研究会 SCAN(スキャン)は、学生・企業・住民が、協力し合い地域の問題に向き合っていく、そのきっかけづくりとそれらをつなぐ媒体となることを目的とし、平成 22 年に釧路公立大学で設立されました。“SCAN”という名称は、“Sophisticated Community and Academics for Networking.”の略であり、Scan(調べる)を通じて、企業・大学を含めた地域のつながりをよりよいものにしていこうという意味が込められています。

現在は、道内の大学9校(釧路公立大学、北見工業大学、札幌学院大学、札幌大学、北翔大学、北海学園大学、北海道教育大学旭川校、北海道教育大学釧路校、北海道メディカルスポーツ専門学校)で活動しています。

大学生の社会参加・社会連携が注目される中、全国の先駆けとして、SCANは「研究成果の地域への還元」を活動理念に掲げ、合同研究会を通じ研究成果を学外へ発信しています。

地域の課題 学生目線で

釧路で道内大学研究発表



発表する下山ゼミAのメンバー

今回7回目となる合同研究会(教育大学釧路校・同旭川校)は、北見工業大学、道一なび大学、専門学校学校の19

研究が参加。今回は「地域」「スポーツ」と生きる地帯のつながりを探るテーマに、各研究室独自の調査や地域課題を対案を述べた。

(山田 聖)

「今回は、ブランド化された工場の廃校を「創産」として統一し、ブランド化することを提言。地域単独で地域課題を進めていくのではなく、ブランドの酒と連携し、地元材の消費拡大に努めるべし」とを訴えた。

このほか、スポーツをテーマにした山下ゼミAの発表では、道内各地域のスポーツ施設を調査し、地域活性化に貢献する提案を述べた。また、道内各地域のスポーツ施設を調査し、地域活性化に貢献する提案を述べた。

地元食材活用 経済効果に／総合スポーツクラブを

釧路新聞 平成28年12月11日 掲載

インタビュー

interview



北海道学生研究会SCAN第7期代表
大日向 雅人さん(経済学科4年)

私は秋田県生まれ秋田県育ちで、幼い頃から近所の方々を始め、多くの地域の方々から優しく育てていただきました。釧路公立大学に入学し、少しだけ大人になった節目に、地域を活性化させたいと思う気持ちが増してきました。そこで出会ったのが SCAN です。SCAN では同年代の大学生が主体的に生き生きと活動をしていました。それを見て、間接的にはありますが、地域のために何か恩返しをしたいと思い参加することにしました。

SCAN の活動で特に印象に残っているのは、学生の研究意欲を向上させるために開催された「インターカレッジフォーラム」

に、オリンピック出場経験のあるカーリング選手とトークショー形式の講演会を行ったことです。平成 28 年度の活動テーマが「スポーツと生きる地域」だったので、スポーツと地域の関わりについて深掘りして学べる大変貴重な講演会になりました。

SCAN は文系だけではなく理系の大学も参加しています。様々な視点から「地域」について考えることができ、その考えを参加校、地域の方、企業の方と共有できたことが、やはり一番よかったと思います。地域についての課題などの見方・考え方は一つではないと学ぶことができました。SCAN の活動の中では、普段お会いすることがないような企業の方、地域の方、行政の方と接する機会が数多くありました。そのような場面でのマナー、言葉遣い、時間感覚など経験することすべてにおいて苦勞しました。

平成 29 年度より SCAN の活動拠点は札幌に移りましたが、基本的に活動内容はあまり変わりません。地域活性化について、我々学生が主体的に考え、地域とのつながりをよりよいものにしていきます。これからも我々の活動が多くの方の目にとまり、一人でも多くの方が地域について考えていただけるように、SCAN メンバー一同、尽力して参ります。また、SCAN が活動できているのは、これまでのたくさんの方々のご協力のおかげです。すべての関係者様に恩返しができるよう、日々精進いたします。

カフェ ラ・ペ

～地域と歩んだ「標」～



平成28年5月20日、学内喫茶「カフェ ラ・ペ」がオープンしました。同年1月から運営組織「カフェラボ」を立ち上げ、学生自ら開設準備・企画・運営をし、業者の撤退により平成20年から閉鎖していた喫茶コーナーを復活させました。学内の飲食施設を学生が運営するのは、道内の国公立大学では初めての試みです。

「実践的な経済学を学ぶ場」として、主体的に目標を設定し、行動・実行する過程を通じて、キャリア形成を図る就業体験の場となっています。また、学生のキャリア形成・教育効果の向上、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力など、他者との接触の中で求められる能力が養われることが期待されます。

一方、学生の憩いの場の創出や地域の方々の利用を通じて学内外に魅力ある釧路公立大学を発信しています。

釧路大内に学生カフェ

経営学学ぶ場「貴重な経験」

釧路公立大学に20日、学生自ら始め、提供・販売や、売り上げを生体が運営する「カフェ ラ・ペ」がオープンした。学内の調理訓練も重ねた、光に近い形で学生が活躍する場と位置付けており、就職活動などにも経験を生かしたいと考えた。

経営学科3年の清水啓希さん(20)が、同校の地域貢献をしようと自志を募り、今年月に「釧路公立大学カフェラボ」を設立。同大学の13年20人が所属し、学内で閉鎖していた喫茶スペースを復活させようと準備を進めていた。大学側は同様に運営を委託する形で年間60万円を拠出。販売戦略や仕入れ方法、衛生管理、メニューなどを検討している。

初日はオープン前から学生が列をつくる中、大きな聲もなく種類のメニューを提供。豊前別で並んでいた馬野亮吾さん(18)は「自分たちで行動を起こすのは初めてだし、尊敬している。メニューもおもしろいので今後も利用したい」と話した。

清水さんは「無事にオープンできてほっとしている。まずは学生としての責任を背負って頑張りたい」と話した。また、学生自ら飲食施設を運営することによって「自分たちが学んでいる授業で学んだことが実際に生かせる貴重な経験を積むことができると感じた。カフェは平日の午後3時から閉る時まで。学生以外も利用される。」

(二)坂部未



★ インタビュー

interview



カフェラボ代表
前川 直さん(経営学科3年)

カフェ ラ・ペの「ラ・ペ」は、フランス語で憩いの意味で、学生はもちろん市民の方にも広く利用いただける憩いの場を目指しています。現在部員は30名で、学業やアルバイト等に支障が出ないようにローテーションを組み、交代で運営しています。サークルメンバーの中には飲食店でアルバイトしている人もいて、そうした経験者の意見を店舗の運営に取り入れています。

メニューは一杯ずつ丁寧にハンドドリップしたブレンドコーヒー、ホットドック、コーヒーゼリーのほか、季節限定メニューも出しています。将来は、学外に店舗を借りてお店を出すことを目標にしており、今はその資金を貯め、ノウハウの蓄積をしている最中です。

よさこいサークル 心～sin～釧路学生魂

～地域と歩んだ「しるべ標」～

よさこいサークル“心～sin～釧路学生魂”は釧根初のよさこい学生チームです。釧路公立大学の学生が中心となり「学生の熱いパワーで釧路をもっと盛り上げたい」という想いで、平成21年11月発足しました。後に北海道教育大学釧路校、釧路短期大学の学生も加わり、混成チームが結成されました。サークル活動を通じ、釧路市内の大学間の親睦、交流を深める場となっています。チーム発足時からの活動コンセプトは「心」で、チームとして「メンバー同士の心を共有しよう」、舞台では「お客さんに心を表現しよう」という意味が込められています。

毎年6月に札幌で開催されるYOSAKOIソーラン祭りへの出場をはじめ、くしろ港まつりなどの地域で開催されるイベントやお祭りへの参加、福祉施設への慰問など、地域に愛されるチームを目指し活動を続けています。



第26回 YOSAKOIソーラン祭りでの演舞(平成29年6月)



釧路公立大学での練習風景

★ インタビュー

interview



よさこいサークル“心～sin～釧路学生魂”代表代行
外崎 功陽さん(経済学科2年)

私は高校まではサッカーをやっていましたが、大学では何か新しいことに挑戦したいと思い、先輩から熱心に勧誘を受けたこともあり、このサークルを選びました。

3大学が一緒になっての活動で、週2度、釧路公立大学か教育大学釧路校に集まり練習しています。それ以外にも、メンバーがそれぞれ自主練習もしていますし、練習以外での交流も活発です。構成班、衣装班、振り付け班などそれぞれの担当がいて、札幌のYOSAKOIソーラン祭りのファイナルステージ進出を目指して頑張っています。

お客様の前で踊りを披露することはとても楽しいですし、充実感があります。くしろ港まつりをはじめ、地域のイベントやお祭りに呼んでいただいて、特に夏場は演舞を披露する機会が多くあります。YOSAKOIソーラン祭りでのファイナル進出の実績はまだありませんが、来年こそはあのステージに立てるようになりたいです。

音楽サークル

～地域と歩んだ「^{しるべ}標」～

アカペラコーラスサークル “アニュー”



入学式での校歌紹介

✧ インタビュー

interview



アカペラコーラスサークル“アニュー”代表
川内 翔太さん(経済学科3年)

アカペラコーラスサークル“アニュー”は、現在男声10名女声6名の計16名で活動をしています。サークルが結成されてまだ4年と新しい部です。毎年7月には大学の大講堂で開催する定期演奏会や、釧路合唱連盟主催の合唱祭にも出場しています。その他に学内の活動では、入学式で校歌を紹介したり、ウィンターコンサート、大学祭や学内喫茶カフェラ・ペでのアカペラコンサートなどを行っています。地域のイベントでは、くしろチューリップ&花フェアなどにも出演しています。

少人数で活動しているので和気あいあいとしてみな仲よしですが、人数がもう少し多いと、歌にボリュームが出せるので、メンバーがもっと増えてほしいなと思っています。

活動の様子はYouTubeにもアップしていますので、是非チェックしてみてください。

弦楽アンサンブルサークル



福祉施設での慰問コンサート

吹奏楽部



入学式での演奏

学生の活躍（全国大会出場等）

～地域と歩んだ「標」～



経営学科4年 齊藤 正輝さん(写真中央・赤のユニフォーム)
平成28年9月2日～4日に埼玉県熊谷市にて行われた天皇賜盃第85回日本
学生陸上競技対抗選手権大会(3,000m障害)へ出場。



経営学科2年 松本 誠由さん(写真右端)
平成28年10月1日～10日にブルガリアにて行われたアームレスリング世界
大会(2016 WAF World Armwrestling Championships in Bulgaria)において、
日本代表として出場。

釧公大アメフト部「スナイパーズ」

初の1部昇格をかけた入れ替え戦を前
に意気込むスナイパーズの選手たち



4戦全勝 道2部 初V

スナイパーズには選手16
人とマネージャー5人が所
属。同じくは道内大会が
集う唯一の公式戦で、1部
6校、2部5校それぞれ
総当たり戦を行う。
リーグ初戦は、昨年勝
つ道医療大に33-0と無失
点で勝ち、2010年不
戦勝以来の白星を挙げた。
勢いに乗って「勝つのも
無い上がらず、反響しな
がら次の試合に進んだ」。坂
本主将(21)は、室工に
6と連勝し、1988年の
創部以来初の2部優勝を決
めた。23日の道科卒大の
最終戦も39-12で制した。
「勝たたいと言いつつも
気持ちも探りも足りなかつ

30日入れ替え戦「臆せず挑む」

た「このままではいけな
い」と思ったと選手たちが
振り返る。進軍の原動力は
1部の帯巻大に大敗した5
月の練習試合。想定外の相
手の守りに攻撃が全通用
せず、美しさを痛感した。
その後、ゼミやアルハイ
トの日経練習を惜みずな
ど、工夫し練習時間を捻
出すように、相手の守り
方を向ハイテンも想定し
攻撃側の前線となるラン
マンの連携を何度も確し
た。夏には練習試合も勝つ
なす手応えを感じていた。
入れ替え戦の相手は量
級選手が多い1部昇格位の
札大。坂本主将は「臆せず
向かったい」と意気
込む。

釧路公立大アメリカンフットボール部「スナイパーズ」が9月10日に開か
れた第42回選手権大会秋季リーグ2部で初優勝した。昨年まで5連
続最下位から、4戦全勝の快進撃。4年生の坂本祐介主将(21)は、時
間がたつて実感がわいてきた」と喜ぶ。30日には存の1部昇格をかけた入れ
替え戦に臨む。
(小野隆子)

北海道新聞 平成28年10月25日 朝刊掲載

よりどり スポーツ

軟式野球の高松宮賜杯釧路支部大会の一部と二部の
決勝が、25日に釧路市広里の市民付属球場で行われた。

一部は釧公大軟式野球部、二部は釧路市の社会人チー
ム「ブレイス」が、共に初優勝を飾った。(二色朋恵)

軟式野球・高松宮賜杯釧路支部大会



一部で優勝した釧公大軟式野球部の選手

北海道新聞 平成29年6月27日 夕刊掲載



一部は釧公大初V

二部 社会人「ブレイス」も

北海道軟式野球連盟釧路
支部の主催で、一部15チー
ム300人、二部14チー
ム280人が出場した。前年
度の成績で、チームを一部と
二部に分けて5月21日から
トーナメント戦を行った。
優勝したチームは7月に中
標津町で開かれる全道大会
に進む。
一部決勝は、二部から一
部が上がったばかりの釧公
大軟式野球部と標葉町の社
会人チーム「華月倶楽部」
が対戦。釧公大は四回表に
2点、六回表に1点を入れ
て、3対0で優勝した。公
立3年の新山太郎(21)
は「投手がよく、守備もエ
ラーが少なかった。全道大
会ははげがないよう頑張っ
てくる」と話した。
二部決勝は釧路市の「ブ
レイス」と釧路市役所野球
部が戦った。八回表まで2
対2の同点で、八回裏にブ
レイスが犠牲フライで1点
を入れ、その後すぐ2点を
追加し、5対2で優勝した。
ブレイスの安部道範監督
(54)は「チーム内の声かけ
がよくて、八回裏に勢いに
乗れた。9年目の初優勝
はとてもうれしい」と喜ん
だ。

学生の地域貢献・ボランティア活動

～地域と歩んだ「標」～

地域に根ざし、地域に開かれた大学として、地域づくり・地域活性化を実践的に学ぶ科目を設けており、学生が実際に地域の課題解決に向けたプロジェクトに参加しています。また、学生課においてボランティア等の募集を集約し周知することで、多くの学生が地域のボランティア活動に参加しています。

陣痛クリニックの女性たち
釧路公立大学看護学部4年 土田 菜さん

陣痛クリニックの女性たちは、産婦人科の患者さんを支えるために、日々頑張っています。彼女たちは、産婦人科の患者さんに対して、産前・産中・産後のケアを行い、安心して産むことができるようサポートしています。

妊婦支援の意識改革を
第26期卒業生 土田 菜さん
釧路新聞 平成27年6月28日 掲載

産婦人科の患者さんを支えるために、日々頑張っています。彼女たちは、産婦人科の患者さんに対して、産前・産中・産後のケアを行い、安心して産むことができるようサポートしています。

釧路公立大生 味な知恵



ケーキ物産展デビュー
道産食材ふんだん

道産食材ふんだん、ケーキ物産展デビュー。学生たちは、道産食材を使用したケーキを制作し、展示しました。これは、地域の産品を応援するための活動です。



完成品を前に談笑する中産社員（左から3人目）と釧路公立大観光調査会のメンバー

世代間交流の場 地域に



30日から コア大空食堂
釧路短大、公立大生が協力

30日から、コア大空食堂がスタートしました。釧路短大と公立大生が協力して運営しています。これは、世代間交流の場を提供するための活動です。

釧路新聞 平成28年7月28日 掲載

ボランティア通し交流



釧路新聞 平成29年8月9日 掲載



子どもの学習を支援 「鳥取てらこや」3年
地味な活動でも、子どもの学習を支援する「釧路鳥取てらこや」が、釧路市内に設立されて3年が経ちました。子どもたちの学習をサポートするための活動です。

ボランティア参加で単位「良い経験」好評
釧路鳥取てらこやで、大生の協力を呼びながら活動を行う小学生たち

ボランティア参加で単位「良い経験」好評。学生たちは、ボランティア活動を通じて、社会貢献の経験を得ています。

北海道新聞 平成27年3月7日 朝刊掲載

釧路わかもの△カイギ



釧路新聞 平成29年5月21日 掲載

若者の手で魅力アップ まちづくりを考える
若者の力でまちづくりを考える。学生たちは、地域の魅力を向上させるための活動を行っています。

釧路公立大生 自立積極指導
自立積極指導。学生たちは、自立した生活を送るための指導を受けています。

北海道新聞 平成27年3月7日 朝刊掲載

釧路公立大学年表

昭和57年	
2月	釧路市長、市政方針において地元大学設置について検討を表明
昭和58年	
2月21日	釧路市長、釧路市高等教育懇話会に対し、4年制大学の必要性、可能性およびその方策について諮問
昭和59年	
1月25日	釧路市高等教育懇話会、釧路市長に対し市立大学設置の必要性などについて答申 市立大学設置構想案を作成
4月 3日	高等教育担当参事を設置 (財)開発計画研究所に大学建設構想調査を委託(11月、調査報告書完成)
7月	文部省高等教育局に市立大学設置構想案を説明、折衝を開始する 北海道に市立大学設置構想案を説明、折衝を開始するとともに協力を要請
7月～9月	地元高校生・父母・企業の一部に4年制大学立地についてアンケート調査
9月	釧路市立大学設置を実現させる会発足
10月	自治省に市立大学設置計画について説明、折衝を開始する
昭和60年	
3月	釧路市総合計画に市立大学設置構想を策定・議決を得る 総合計画実施計画(昭和60～62年)で具体的推進計画を策定
12月30日	高等教育推進室を設け、体制を固める
昭和61年	
2月	釧路市議会2月定例会において、市立大学設置構想を説明。細部にわたって論議、理解が得られる
3月	釧路市議会において、実現させる会からの早期実現についての陳情を受理、全会一致で採択
7月	釧路市長、助役はそれぞれ北海道大学、小樽商科大学を訪ね大学設置について協力を依頼する
8月	釧路市立大学設置を実現させる会、理事会、総会を開催。署名、募金活動の開始、組織の拡大、強化を決める
9月 5日	釧路市立大学設置を実現させる会は95,213名の署名簿を添えて、釧路市および釧路市議会に早期実現を陳情
9月 8日	葉梨自治大臣来釧の折、大学設置について陳情。一部組合方式による大学設置に方針転換
9月22日	釧路圏振興協議会主幹者会議で一部事務組合立による大学設置構想について管内9町村に説明、協力を求める
10月 2日	釧路市議会公立大学設置促進特別委員会設置第1回会議開催
10月 8日	釧路管内助役会にて公立大学設置計画説明
10月13日	釧路市立大学設置を実現させる会、総会にて釧路公立大学設置を実現する会と名称を変更し、役員を補強・寄付募金体制を強化する
10月16日	管内町村長会議にて設置計画への協力要請
10月30日	大学開設準備事務局設置、大学開設推進本部設置 大学開設準備委員会設置、第1回の委員会開催
11月	自治省と最終計画案を協議 管内議会議長、副議長に対し協力要請
12月12日	管内町村長会議で各町村長の最終意思確認 組合設立協議議案、全市町村議会で議決 自治大臣、組合立大学設置を了承
昭和62年	
1月20日	管内市町村長会議、組合設立の協議成立
2月14日	組合設立許可申請を北海道知事に提出
2月20日	北海道知事より釧路公立大学事務組合設立許可通知を受理、組合成立、 鰹淵俊之管理者就任、高嶋正彦学長予定者発表
3月	釧路市議会公立大学設置促進特別委員会解散(発足後6回の委員会を開催) 自治省から釧路公立大学設置承認を得る
3月 9日～24日	管内町村議会で組合議会議員を選出
3月30日	初の公立大学事務組合議会(3月臨時会)。昭和62年度予算案各種条例等を議決、諸条例等議決
5月	各建物工事請負契約を締結する
5月20日	組合議会(5月臨時会)、工事請負契約議決、財産取得(学術図書)議決 第一期工事に着工(校舎棟・事務棟)
6月25日	文部省に釧路公立大学経済学部設置認可申請書提出
9月	文部省大学設置審議会現地審査
10月28日	文部省に設置認可補正申請書提出
11月	北海道、東北6県の全高校及び全国の予備校へ学校案内パンフレット送付
12月23日	文部省より設置認可、ただちに学生の募集活動に入り、募集要項を全国の主要高校及び予備校へ送付
12月28日	組合議会(12月定例会)、大学条例・授業料等条例議決
昭和63年	
1月29日	推薦入学選考
2月22日	第一期工事竣工
3月 8日	一般入試実施

3月	開設準備委員会解散(発足後8回の委員会を開催)
4月 1日	開学 高嶋正彦学長、吉武清彦学部長、西村正一附属図書館長就任
4月 3日	大学施設一般公開
4月14日	第1回入学式
4月 6日	食堂・喫茶開業(食堂:美奈味、喫茶:春の湯)
5月13日	売店開業(売店:美奈味)
6月 1日	第二期工事着工(校舎棟・体育館)
6月13日	釧路公立大学開学・落成記念式典(市民文化会館)
8月28日～9月16日	高校訪問
9月20日	釧路公立大学後援会設立
10月24日	カナダ・サイモンフレイザー大学と姉妹校提携について覚書
12月15日	昭和64年度推薦入試実施
12月20日	第二期工事竣工
平成元年	
1月27日～29日	第1回学校祭
3月 8日	平成元年度一般入試実施(釧路、東京、札幌)
4月14日	第2回入学式
8月28日～9月11日	高校訪問
9月28日～29日	公立大学協会学長会議開催
10月21日～30日	カナダ・サイモンフレイザー大学を高嶋学長、栗山久策教授が訪問(姉妹校提携協議)
11月2日～4日	第2回学校祭
12月15日	平成2年度推薦入試実施
平成2年	
2月 2日	第1回特別講演会(東京外国語大学 中嶋嶺雄教授)
3月 8日	平成2年度一般入試実施
4月12日	第3回入学式
6月 2日	植樹祭
6月23日～24日	開学記念スポーツ大会
8月26日～9月14日	高校訪問
8月31日～9月4日	カナダ・サイモンフレイザー大学ジョン・F・チャント教授来釧、9月3日講演会
9月4日～6日	東日本公立大学事務局長連絡会議開催
9月7日～13日	第1回公開講座(白糠町、厚岸町、釧路市)
10月19日～21日	第3回大学祭
11月 1日	八坂功学部長就任
11月21日	特別講演会(北海道大学 木村汎教授)
12月 7日	特別講演会(北海道大学 辻井達一教授)
12月14日	平成3年度推薦入試実施
平成3年	
3月 8日	平成3年度一般入試実施
3月10日～4月 3日	第1回海外英語研修
4月12日	第4回入学式
6月 8日	植樹祭
6月23日～24日	開学記念スポーツ大会
7月25日	カナダ・サイモンフレイザー大学、キャピラノ・カレッジと姉妹校提携(サイモンフレイザー大学)鰹淵管理者、高嶋学長、石川和身事務局長出席
8月28日～9月20日	高校訪問
9月18日～26日	第2回公開講座(釧路市、阿寒町、鶴居村)
10月25日～27日	第4回大学祭
11月 8日	特別講演会(青山学院大学 速水佑次郎教授)
11月11日	特別講演会(北海道大学 中野美代子教授)
12月13日	平成4年度推薦入試実施
12月28日	組合議会で学科増設の検討を表明
平成4年	
3月 8日	平成4年度一般入試実施
3月8日～4月 1日	第2回海外英語研修
3月23日	第1回学位記授与式
4月10日	第5回入学式
6月 4日	カナダ・キャピラノ・カレッジ ジェンマン博士来学
6月 6日	植樹祭
8月21日	カナダ・バーナビー市市制100年に鰹淵管理者、八坂学部長、早坂正事務局次長が表敬訪問(サイモンフレイザー大学、キャピラノ・カレッジ)
8月24日～9月12日	高校訪問
9月16日～10月14日	第3回公開講座(釧路市、標茶町、浜中町)
10月23日～25日	第5回大学祭
11月 6日	特別講演会(札幌学院大学 田中彰教授)
11月10日	特別講演会(法政大学 小林謙一教授)
12月11日	平成5年度推薦入試実施
平成5年	
1月15日	釧路沖地震(被害額建物・設備・備品 393万円、外構 979万円)

- 3月7日～4月1日 第3回海外英語研修
- 3月8日 平成5年度一般入試実施
- 3月23日 第2回学位記授与式
- 4月12日 第6回入学式
- 5月1日 大場正己附属図書館長就任
- 6月5日 植樹祭
- 8月23日～9月11日 高校訪問
- 9月1日 カナダ・サイモンフレイザー大学、キャピラノ・カレッジを栗山教授が訪問(教員招聘交渉・交流促進)
- 10月1日 公立大学協会商・経・経営学部会開催
- 10月14日～15日 公立大学協会事務研修会議開催
- 10月22日～24日 第6回大学祭
- 10月22日～11月4日 第4回公開講座(釧路町、弟子屈町、釧路市)
- 10月29日 特別講演会(青山学院大学 北見俊郎名誉教授)
- 11月2日 特別講演会(東京女子大学 猿谷要名誉教授)
- 12月13日 平成6年度推薦入試実施

平成6年

- 3月4日～28日 第4回海外英語研修
- 3月8日 平成6年度一般入試実施
- 3月11日 カナダ・キャピラノ・カレッジ ジャーディーン学長来学
- 3月23日 第3回学位記授与式
- 4月1日 森山弘毅学部長、小林和夫附属図書館長就任
- 土曜日休業
- 4月11日 第7回入学式
- 5月30日 カナダ・キャピラノ・カレッジ招聘教員ローラ・タモリ講師着任
- 6月3日 植樹祭
- 8月21日～9月10日 高校訪問
- 9月8日～10月14日 第5回公開講座(音別町、白糠町、釧路市)
- 10月4日 東方沖地震(被害額 122万円)
- 10月28日～30日 第7回大学祭
- 10月29日 特別講演会(同志社大学 西村豁通教授)
- 11月2日 特別講演会(花園大学 竹内恵美子教授)
- 11月25日 事務組合立大学懇話会開催
- 12月12日 平成7年度推薦入試実施

平成7年

- 1月12日、2月28日 文部省と学科増設について事前協議
- 1月14日～15日 大学入試センター試験実施
- 3月3日～27日 第5回海外英語研修
- 3月8日 平成7年度一般入試実施
- 3月23日 第4回学位記授与式
- 4月13日 第8回入学式
- 6月2日 植樹祭
- 9月28日 文部省に経営学科増設届出
- 10月9日～11月15日 第6回公開講座(釧路市、鶴居村、厚岸町)
- 10月15日～11月2日 高校訪問
- 10月20日 特別講演会(創価大学 佐藤純一教授)
- 10月24日 特別講演会(経済評論家 荒木信義氏)
- 10月27日～29日 第8回大学祭
- 11月10日 文部省経済学・商学視学委員現地視察
- 12月11日 平成8年度推薦入試実施
- 12月22日 文部省経営学科増設届出正式受理

平成8年

- 1月13日～14日 大学入試センター試験実施
- 2月25日 平成8年度社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施
- 3月3日～27日 第6回海外英語研修
- 3月8日 平成8年度一般入試実施
- 3月22日 第5回学位記授与式
- 4月1日 荒又重雄学長就任
- 4月11日 第9回入学式
- 6月22日 経営学科開設・校舎増築落成式典・祝賀会
- 6月24日 植樹祭
- 7月12日 自己点検評価委員会設置
- 7月19日 特別講演会(鰯淵管理者)
- 8月18日～9月7日 高校訪問
- 9月2日～4日 カナダ・キャピラノ・カレッジを荒又学長、鷹田和喜三教授が表敬訪問
- 9月25日 経営学科教職課程申請
- 10月3日 特別講演会(パソナ・チャイルド・ケア・インターナショナル 佐藤敦子社長)
- 10月11日～13日 第9回大学祭
- 10月11日～11月11日 第7回公開講座(阿寒町、標茶町、釧路市)
- 10月13日 公立大学発展中・長期計画検討委員会設置

- 10月16日 特別講演会(農協労働問題研究所 松本登久男理事長)
- 10月17日 カナダ・キャピラノ・カレッジ招聘教員ジョン・ブラウンリー・パーカー講師着任
- 11月17日 綿貫健輔管理者就任
- 11月21日 アセアン各国青年交流会
- 12月9日 平成9年度推薦入試、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施

平成9年

- 1月18日～19日 大学入試センター試験実施
- 3月3日～26日 第7回海外英語研修
- 3月8日 平成9年度一般入試実施
- 3月21日 第6回学位記授与式
- 3月31日 英文パンフレット作成
- 4月10日 第10回入学式
- 5月9日 カナダ・キャピラノ・カレッジ招聘教員ウェイン・ヒューズ講師着任
- 5月19日 学内ネットワークシステム工事完了
- 6月6日 開学10周年記念植樹祭
- 8月18日～9月5日 高校訪問
- 10月3日 第1回ジョイントセミナー
- 10月4日 開学10周年記念式典・祝賀会・神戸大学 水谷敬二教授講演
釧路公立大学沿革史発刊
- 10月10日～12日 第10回大学祭(11日オープンキャンパス)
- 10月15日 特別講演会(東京大学 杉浦克己教授)
- 10月15日～11月21日 開学10周年記念 第8回公開講座(釧路市、弟子屈町、浜中町)
- 10月27日 特別講演会(和光大学 小林文人教授)
- 11月5日 釧路地域懇話会(地域分析研究委員会)
- 11月28日 開学10周年記念公開シンポジウム
- 12月5日 平成10年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施

平成10年

- 1月17日～18日 大学入試センター試験実施
- 3月8日～28日 第8回海外英語研修
- 3月8日 平成10年度一般選抜試験実施
- 3月17日 北海道教育大学釧路校との単位互換協定調印
- 3月23日 第7回学位記授与式
- 4月1日 鎌田耕一学部長、高野敏行附属図書館長就任
- 4月9日 第11回入学式
- 4月15日 カナダ・キャピラノ・カレッジ招聘教員エマ・チャン講師着任
- 6月12日 アセアン各国青年交流会
- 7月13日～17日 ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム
- 8月18日～9月4日 高校訪問
- 9月1日～12月31日 第1回短期海外留学生派遣事業(カナダ・キャピラノ・カレッジ)
- 9月26日～27日 第2回ジョイントセミナー
- 10月8日～11月10日 第9回公開講座(釧路市、音別町、釧路町)
- 10月10日～11日 第11回大学祭(10日オープンキャンパス)
- 10月19日 特別講演会(東京大学社会科学研究所 大瀧雅之助教授)
- 11月9日 特別講演会(お茶の水大学ジェンダー研究センター 原ひろ子教授)
- 11月16日～17日 事務組合立等大学設置者懇話会開催
- 11月24日～27日 企業訪問
- 11月29日 第34回北海道学生柔道新人大会開催
- 12月2日 釧路地域懇話会(地域分析研究委員会)
- 12月4日 平成11年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施

平成11年

- 1月16日～17日 大学入試センター試験実施
- 3月8日 平成11年度一般選抜試験実施(大阪会場追加)
- 3月23日 第8回学位記授与式
- 4月9日 第12回入学式
- 5月1日 カナダ・キャピラノ・カレッジ招聘教員キャリア・ジャン講師着任
- 6月2日 地域経済研究センター設置、小磯修二センター長就任
- 7月5日 韓国・牧園大学との間に学術交流協定及び学生交換協定締結(牧園大学)
荒又学長、米田忠幸事務局長出席
- 7月13日～15日 ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム
- 8月18日～9月4日 高校訪問
- 9月1日～12月31日 第2回短期海外留学生派遣事業(カナダ・キャピラノ・カレッジ)
- 10月4日～8日 企業訪問
- 10月5日～6日 第3回ジョイントセミナー
- 10月7日～28日 第10回公開講座(釧路市、鶴居村、白糠町)
- 10月9日～11日 第12回大学祭(10日オープンキャンパス)
- 10月29日 平成11年度秋季道内国公私立大学学長懇談会開催
- 11月4日 特別講演会(フリージャーナリスト 魚住昭氏)
- 11月26日 特別講演会(荏原総合研究所 松村知顧問)
- 12月2日 平成12年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施
- 12月3日 釧路地域懇話会(地域分析研究委員会)

平成12年

- 1月15日～16日 大学入試センター試験実施
- 2月8日 韓国・牧園大学李君鎭総長来学
- 3月1日 韓国・牧園大学へ交換学生派遣
- 3月8日 平成12年度一般選抜試験実施
- 3月23日 第9回学位記授与式
- 4月1日 板本猛学部長就任
韓国・牧園大学から交換学生受入
- 4月10日 第13回入学式
- 5月1日 カナダ・キャピラノ・カレッジ招聘教員ジョン・ファーナン講師着任
- 8月16日～9月8日 高校訪問
- 9月1日～12月31日 第3回短期海外留学生派遣事業（カナダ・キャピラノ・カレッジ）
- 10月2日～18日 企業訪問
- 10月13日～15日 第13回大学祭（14日オープンキャンパス）
- 10月18日～11月10日 第11回公開講座（釧路市、厚岸町、標茶町）
- 10月31日 平成12年度公立大学協会東部地区協議会開催
- 11月2日 特別講演会（大阪大学大学院国際公共政策研究科 辻正次教授）
- 11月15日 特別講演会（酪農総合研究所 久保嘉治副所長）
- 11月30日 平成13年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施

平成13年

- 1月20日～21日 大学入試センター試験実施
- 3月1日 韓国・牧園大学へ交換学生派遣
- 3月8日 平成13年度一般選抜試験実施
- 3月23日 第10回学位記授与式
- 4月1日 ㈱大学基準協会正会員加盟登録
韓国・牧園大学から交換学生受入
- 4月10日 第14回入学式
- 5月1日 カナダ・キャピラノ・カレッジ招聘教員マルコム・フィッツアール講師着任
- 8月20日～9月7日 高校訪問
- 9月1日～12月31日 第4回短期海外留学生派遣事業（カナダ・キャピラノ・カレッジ）
- 9月17日～11月7日 企業訪問
- 10月10日～11月9日 第12回公開講座（釧路市、阿寒町、弟子屈町）
- 10月19日～21日 第14回大学祭（21日オープンキャンパス）
- 10月26日 特別講演会（同志社大学商学部 光澤滋朗教授）
特別講演会（大阪大学大学院経済学研究科 二神孝一教授）
- 11月29日 平成14年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施

平成14年

- 1月19日～20日 大学入試センター試験実施
- 3月8日 平成14年度一般選抜中期日程試験実施
- 3月22日 第11回学位記授与式
- 4月1日 高野敏行学部長、河村一附属図書館館長就任
韓国・牧園大学から交換学生受入
- 4月10日 第15回入学式
- 4月15日 附属図書館閉館時間延長開始
- 5月1日 カナダ・キャピラノ・カレッジ招聘教員リタ・イソラ講師着任
- 5月13日～31日 スタディ・ツアー（カナダ・キャピラノ・カレッジより来学）
- 8月6日 オープンキャンパス
- 8月19日～9月11日 高校訪問
- 9月1日～12月31日 第5回短期海外留学生派遣事業（カナダ・キャピラノ・カレッジ）
- 10月11日～11月13日 第13回公開講座（釧路市、釧路町、浜中町）
- 10月4日～6日 第15回大学祭
- 10月28日～11月22日 企業訪問
- 11月1日 韓国・牧園大学との間に教員交換協定締結
- 11月5日 韓国・牧園大学テコンドーチーム来学
- 11月21日 特別講演会（甲南大学経済学部 熊沢誠教授）
- 11月28日 平成15年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施
- 12月6日 特別講演会（慶応義塾大学経済学部 前多康男教授）
- 12月16日 伊東良孝管理者就任

平成15年

- 1月18日～19日 大学入試センター試験実施
- 3月1日 韓国・牧園大学へ交換学生派遣
- 3月8日 平成15年度一般選抜中期日程試験実施
- 3月22日 第12回学位記授与式
- 4月7日 韓国・牧園大学から交換学生受入
- 4月10日 第16回入学式
- 5月1日 カナダ・キャピラノ・カレッジ招聘教員ケント・ルイス講師着任
- 5月14日 特別講演会（前宮崎公立大学学長 内嶋善兵衛博士）
- 6月3日 特別講演会（知識科学教育研究センター長 國藤進博士）
- 8月1日 オープンキャンパス
- 8月18日～9月19日 高校訪問

- 8月23日～27日 4大学学生交流会
- 8月26日 事務組合立等大学設置者懇話会開催
- 9月1日～12月31日 第6回短期海外留学生派遣事業（カナダ・キャピラノ・カレッジ）
- 9月8日～19日 企業訪問
- 10月3日～5日 第16回大学祭
- 10月7日～11月17日 第14回公開講座（釧路市、鶴居村、音別町）
- 11月4日 特別講演会（石巻専修大学経営学部 辻悟一教授）
- 11月27日 平成16年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施
- 12月4日 特別講演会（大阪大学大学院経済学研究科 伴金美教授）

平成16年

- 1月17日～18日 大学入試センター試験実施
- 2月3日 台湾・明道管理学院汪大永学長来学
- 3月8日 平成16年度一般選抜中期日程試験実施
- 3月23日 第13回学位記授与式
- 4月1日 板本猛学長、松井憲明学部長、高嶋弘志附属図書館長就任
- 4月7日 韓国・牧園大学から交換学生受入
- 4月9日 第17回入学式
- 6月15日 台湾・明道管理学院との間に学術交流協定、学生交換協定及び教員交換協定締結（明道管理学院）板本学長、箴井義範事務局長出席
- 8月3日 オープンキャンパス
- 8月18日～9月19日 高校訪問
- 8月2日～9月4日 企業訪問
- 9月1日 カナダ・キャピラノ・カレッジ招聘教員ジョン・ブラウリー・ペーカー講師着任
- 9月1日～12月31日 第7回短期海外留学生派遣事業（カナダ・キャピラノ・カレッジ）
- 10月7日～11月17日 第15回公開講座（釧路市、厚岸町、白糠町）
- 10月8日～10日 第17回大学祭
- 11月1日 特別講演会（東洋大学社会学部 青木辰司教授）
- 11月12日 特別講演会（東洋大学法学部 後藤武秀教授）
- 11月25日 平成17年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施

平成17年

- 1月11日 附属図書館増築工事完成、利用開始
- 1月15日～16日 大学入試センター試験実施
- 3月1日 韓国・牧園大学、台湾・明道管理学院へ交換留学生派遣
- 3月8日 平成17年度一般選抜中期日程試験実施
- 3月23日 第14回学位記授与式
- 4月7日 韓国・牧園大学から交換学生受入
- 4月11日 第18回入学式
- 6月30日 カナダ・サイモンブレイザー大学、キャピラノ・カレッジを伊東管理者、板本学長ほか3名が表敬訪問
- 8月1日～9月2日 企業訪問
- 8月2日 オープンキャンパス
- 8月17日～9月16日 高校訪問
- 8月19日 ロシア・ユジノサハリンスク経済法律情報大学との間に協力関係樹立に関する覚書締結（ユジノサハリンスク経済法律情報大学）
- 9月1日～12月31日 第8回短期海外留学生派遣（カナダ・キャピラノ・カレッジ）
- 9月1日 カナダ・キャピラノ・カレッジ招聘教員キャリー・ジャン講師着任
- 10月6日～11月14日 第16回公開講座（釧路市、釧路町、弟子屈町）
- 10月7日～9日 第18回大学祭
- 10月11日 特別講演会（京都大学経済学部 橋本俊昭教授）
- 11月16日 特別講演会（慶応義塾大学法学部 大沢孝介教授）
- 11月24日 平成18年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施

平成18年

- 1月21日～22日 大学入試センター試験実施
- 3月1日 韓国・牧園大学、台湾・明道管理学院へ交換留学生派遣
- 3月8日 平成18年度一般選抜中期日程試験実施
- 3月23日 第15回学位記授与式
- 4月1日 宮下徹学部長、小路行彦附属図書館長就任
韓国・牧園大学から交換学生受入
- 4月10日 第19回入学式
- 6月24日～26日 ロシア・ユジノサハリンスク経済法律情報大学カザコバ・ナタリア国際担当副学長及びキム東洋語学科長来学
- 8月4日 オープンキャンパス
カナダ・バーナビー市訪問団来学
- 8月7日～9月1日 企業訪問
- 8月21日～9月16日 高校訪問
- 9月1日～12月31日 第9回短期海外留学生派遣（カナダ・キャピラノ・カレッジ）
- 9月1日 カナダ・キャピラノ・カレッジ招聘教員ジョン・ブラウリー・ペーカー講師着任
台湾・明道管理学院から交換学生受入
- 9月11日 韓国・牧園大学へ板本学長、箴井事務局長表敬訪問
- 10月2日 特別講演会（東京大学大学院総合文化研究科 松原宏助教授）

10月5日～11月9日 第17回公開講座（釧路市、釧路市阿寒町、浜中町）
 10月6日～8日 第19回入学祭
 10月10日 特別講演会（関西大学、桃山学院大学 大西祥恵講師）
 11月24日 平成19年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施

平成19年

1月20日～21日 大学入試センター試験実施
 3月1日 韓国・牧園大学、台湾・明道管理学院へ交換学生派遣
 3月8日 平成19年度一般選抜中期日程試験実施
 3月23日 第16回学位記授与式
 4月1日 韓国・牧園大学から交換学生受入
 4月10日 第20回入学式
 6月25日 開学20周年記念植樹
 8月3日 オープンキャンパス
 8月6日～31日 企業訪問
 8月21日 事務組合立等大学設置者懇話会開催
 8月21日～9月21日 高校訪問
 9月1日 カナダ・キャピラノカレッジ招聘教員ドワイト・ガーディナー教授着任
 台湾・明道大学から交換学生受入
 ロシア・ユジノサハリンスク経済法律情報大学との間に学術交流協定及び学生交換協定締結
 ロシア・ユジノサハリンスク経済法律情報大学から交換学生受入

9月1日～12月31日 第10回短期海外留学生派遣（カナダ・キャピラノ・カレッジ）
 10月5日～7日 第20回入学祭
 10月6日 開学20周年記念式典・講演・祝賀会
 10月15日 特別講演会（名古屋市立大学 村井忠政名誉教授）
 10月18日 特別講演会（立命館大学産業社会学部 辻勝次教授）

10月11日～11月9日 開学20周年記念第18回公開講座（釧路市、釧路市音別町、釧路町）
 11月5日 管理者の伊東釧路市長がオーストラリア姉妹湿地交流のためニューカッスル市訪問の際、ニューカッスル大学マッコンキー副学長補佐に大学間提携協定を要請
 11月22日 平成20年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施

平成20年

1月19日～20日 大学入試センター試験実施
 3月1日 韓国・牧園大学、台湾・明道大学へ交換学生派遣
 3月8日 平成20年度一般選抜中期日程試験実施
 3月21日 第17回学位記授与式
 4月1日 小磯修二学長、高野敏行学部長、村上文司附属図書館長就任
 韓国・牧園大学から交換学生受入
 4月10日 第21回入学式
 5月18日～19日 オーストラリア・ニューカッスル大学マッコンキー学長補佐及びフェーガン・ランゲージセンター所長来学
 8月4日～29日 企業訪問
 8月7日 オープンキャンパス
 8月18日～9月19日 高校訪問
 9月1日～12月31日 第11回短期海外留学生派遣（カナダ・キャピラノ大学）
 9月1日 カナダ・キャピラノ大学招聘教員テランス・ロバート・グリーンバーグ教授着任
 台湾・明道大学、ロシア・ユジノサハリンスク経済法律情報大学から交換学生受入
 釧路公立大学生生活協同組合準備室設置
 10月7日 特別講演会（佐賀大学経済学部 米倉茂教授）
 10月9日～15日 短期海外派遣（ロシア・ユジノサハリンスク経済法律情報大学）
 10月10日～12日 第21回入学祭
 10月17日～11月21日 第19回公開講座（釧路市、鶴居村、白糠町）
 10月22日 特別講演会（九州大学大学院経済学研究所 内田文彦准教授）
 11月2日 蝦名大也管理者就任
 11月20日 平成21年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施
 11月24日 カナダ・キャピラノ大学ユニバーシティ昇格記念式典に宮下徹国際交流委員長出席
 11月25日～29日 韓国・牧園大学総長及び広報センター長、対外交流課長来学
 12月5日 釧路公立大学生生活協同組合創立総会

平成21年

1月17日～18日 大学入試センター試験実施
 2月28日～3月6日 オーストラリア・ニューカッスル大学を宮下国際交流委員長が表敬訪問
 3月1日 韓国・牧園大学、台湾・明道大学へ交換学生派遣
 3月8日 平成21年度一般選抜中期日程試験実施（盛岡会場追加）
 3月23日 第18回学位記授与式
 4月1日 韓国・牧園大学から交換学生受入
 4月9日 第22回入学式
 8月9日 オープンキャンパス
 8月17日～9月24日 企業訪問
 8月18日～9月19日 高校訪問
 9月1日～12月31日 第12回短期海外留学生派遣（カナダ・キャピラノ大学）
 9月1日 カナダ・キャピラノ大学招聘教員ウィリアム・ジョージ・エンライト教授着任

台湾・明道大学から交換学生受入
 ロシア・ユジノサハリンスク経済法律情報大学へ第1回交換学生派遣

10月7日～11月11日 第20回公開講座（釧路市、厚岸町、標茶町）
 10月9日～11日 第22回入学祭
 11月2日～5日 協定締結10周年に伴い韓国・牧園大学を小磯学長ほか3名が表敬訪問
 11月13日 特別講演会（札幌学院大学経済学部 播磨浩三准教授）
 11月17日 特別講演会（外務省国際協力局 大脇広樹審議官）
 11月19日 平成22年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施

平成22年

1月16日～17日 大学入試センター試験実施
 1月18日～20日 韓国・牧園大学バク・キョン社会科学学部長来学
 3月1日 韓国・牧園大学、台湾・明道大学へ交換学生派遣
 3月8日 平成22年度一般選抜中期日程試験実施
 3月23日 第19回学位記授与式
 4月1日 萩原充学部長、高野敏行附属図書館長就任
 韓国・牧園大学から交換学生受入
 4月8日 第23回入学式
 7月14日～10月8日 高校訪問
 8月3日～9月29日 企業訪問
 8月8日 オープンキャンパス
 8月19日 地方都市大学懇話会開催
 9月1日～12月31日 第13回短期海外留学生派遣（カナダ・キャピラノ大学）
 9月1日 カナダ・キャピラノ大学からウィリアム・ジョージ・エンライト講師着任
 台湾・明道大学から交換学生受入
 10月7日～11月9日 第21回公開講座（釧路市、浜中町、弟子屈町）
 10月8日～10日 第23回入学祭
 10月10日～13日 韓国・牧園大学国際研究大会に小磯学長ほか3名が出席
 10月18日 特別講演会（財日本立地センター 秋元耕一郎理事・同立地総合研究所長）
 11月10日～11月12日 カナダ・キャピラノ大学副学長来学
 11月22日 特別講演会（京都大学経済研究所 関口裕准教授）
 11月25日 平成23年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施

平成23年

1月15日～16日 大学入試センター試験実施
 3月1日 韓国・牧園大学、台湾・明道大学へ交換学生派遣
 3月8日 平成23年度一般選抜中期日程試験実施
 3月23日 第20回学位記授与式
 4月11日 第24回入学式
 5月2日～5月5日 韓国・牧園大学開学57周年記念国際学術発表会に小磯学長ほか2名が出席
 6月28日～10月8日 高校訪問
 8月7日 オープンキャンパス
 8月8日～9月26日 企業訪問
 9月1日～12月31日 第14回短期海外留学生派遣（カナダ・キャピラノ大学）
 9月1日 ロシア・ユジノサハリンスク経済情報法律大学へ交換留学生派遣
 カナダ・キャピラノ大学招聘教員コーリー・ジョン・ミンチ講師着任
 台湾・明道大学から交換学生受入

10月6日～11月11日 第22回公開講座（釧路市、釧路市阿寒町、釧路町）
 10月7日～9日 第24回入学祭
 10月27日 特別講演会（桜美林大学リベラルアーツ群 松尾昌宏准教授）
 11月10日 特別講演会（香川大学大学院地域マネジメント研究科 板倉宏昭教授）
 11月24日 平成24年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施

平成24年

1月14日～15日 大学入試センター試験実施
 3月1日 韓国・牧園大学、台湾・明道大学へ交換学生派遣
 3月8日 平成24年度一般選抜中期日程試験実施
 3月23日 第21回学位記授与式
 4月1日 高野敏行学長、小路行彦学部長、高嶋弘志附属図書館長、佐野修久地域経済研究センター長就任
 韓国・牧園大学から交換学生受入
 4月9日 第25回入学式
 8月4日 オープンキャンパス
 8月20日～9月20日 企業訪問
 8月20日～10月26日 高校訪問
 9月1日 台湾・明道大学から交換学生受入
 9月1日～12月31日 第15回短期海外留学生派遣（カナダ・キャピラノ大学）
 9月7日 公立大学協会商・経・経営部会、事務研究会開催
 10月3日～11月1日 第23回公開講座（釧路市、釧路市音別町、鶴居村）
 10月5日～7日 第25回入学祭
 10月31日 特別講演会（帯広畜産大学 河田幸規助教授）
 11月22日 平成25年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施
 11月29日 特別講演会（東北大学大学院 首道智教授）

平成25年

- 1月19日～20日 大学入試センター試験実施
- 2月7日～8日 ロシア・ユジノサハリンスク経済法律情報大学メドヴェージェンコ副学長ほか学生6名来学
- 3月1日 韓国・牧園大学、台湾・明道大学へ交換学生派遣
- 3月8日 平成25年度一般選抜中期日程試験実施
- 3月22日 第22回学位記授与式
- 4月1日 韓国・牧園大学から交換学生受入
カナダ・キャピラノ大学招聘教員コリー・ジョン・ミンチ講師着任
- 4月9日 第26回入学式
- 6月3日 キャリアセンター開設
- 7月5日～9月25日 高校訪問
- 8月3日 オープンキャンパス
- 8月19日～10月1日 企業訪問
- 9月1日 台湾・明道大学、ロシア・ユジノサハリンスク経済法律情報大学から交換学生受入
ロシア・ユジノサハリンスク経済法律情報大学へ交換学生派遣
- 9月1日～12月31日 第16回短期海外留学生派遣（カナダ・キャピラノ大学）
- 10月3日 公立大学協会北海道・東北地区協議会開催
- 10月9日～11月7日 第24回公開講座（釧路市、白糠町、厚岸町）
- 10月11日～13日 第26回大学祭
- 11月9日 釧路公立大学同窓会総会・記念講演会（札幌市）
- 11月15日 特別講演会（南山大学 山岸敬和准教授）
- 11月21日 平成26年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施
- 12月3日～5日 台湾・明道大学を高野学長ほか3名が表敬訪問
- 12月11日 特別講演会（北海道大学 小笠原克彦教授）

平成26年

- 1月18日～19日 大学入試センター試験実施
- 1月22日～25日 韓国・牧園大学金元培総長夫妻ほか教員2名来学
- 3月1日 韓国・牧園大学、台湾・明道大学へ交換学生派遣
- 3月8日 平成26年度一般選抜中期日程試験実施
- 3月22日 第23回学位記授与式
- 4月1日 高嶋弘志学部長、白川欽哉附属図書館長就任
韓国・牧園大学から交換学生受入
カナダ・キャピラノ大学招聘教員カロライ・クチタ講師着任
- 4月10日 第27回入学式
- 4月30日～5月3日 韓国・牧園大学開学60周年記念式典及び国際学術大会に高野学長ほか3名が出席
- 7月18日～10月3日 高校訪問
- 8月1日～9月18日 企業訪問
- 8月9日 オープンキャンパス
- 8月28日 公立大学協会北海道・東北地区協議会開催
- 9月1日 台湾・明道大学、ロシア・ユジノサハリンスク経済法律情報大学から交換学生受入
ロシア・ユジノサハリンスク経済法律情報大学へ交換学生派遣
- 9月1日～12月31日 第17回短期海外留学生派遣（カナダ・キャピラノ大学）
- 10月3日～11月21日 第25回公開講座（釧路市、標茶町、弟子屈町）
- 10月10日～12日 第27回大学祭
- 11月14日 特別講演会（北海道大学・九州大学 加来祥男名誉教授）
- 11月20日 平成27年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施
- 11月27日 特別講演会（兵庫県立大学 水野利英教授）

平成27年

- 1月17日～18日 大学入試センター試験実施
- 3月1日 韓国・牧園大学、台湾・明道大学へ交換学生派遣
- 3月8日 平成27年度一般選抜中期日程試験実施
- 3月23日 第24回学位記授与式
- 4月1日 韓国・牧園大学から交換学生受入
カナダ・キャピラノ大学招聘教員キャサリン・オスラー講師着任
- 4月9日 第28回入学式
- 7月7日～7月13日 カナダ・サイモンフレーザー大学、キャピラノ大学を蝦名管理者、高野学長ほか3名が表敬訪問
- 7月16日～12月7日 高校訪問
- 8月9日 オープンキャンパス
- 8月22日～26日 ロシア・ユジノサハリンスク経済法律情報大学を蝦名管理者、高野学長ほか2名が表敬訪問
- 9月1日 台湾・明道大学、ロシア・ユジノサハリンスク経済法律情報大学から交換学生受入
- 9月1日～12月31日 第18回短期海外留学生派遣（カナダ・キャピラノ大学）
- 9月3日 地方都市大学懇話会開催
- 9月5日 カナダ・バーナビー市訪問団来学
- 9月7日～10月16日 企業訪問
- 10月2日～10月30日 第26回公開講座（釧路市、浜中町、釧路町）
- 10月5日 特別講演会（佐々木地域計画事務所 佐々木滋生所長）
- 10月9日～11日 第28回大学祭

- 10月11日 一般公開講演会（東海大学文学部 柳原伸洋専任講師）
- 11月5日 特別講演会（日本大学経済学部 大森信教授）
- 11月19日 平成28年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施

平成28年

- 1月16日～17日 大学入試センター試験実施
- 3月8日 平成28年度一般選抜中期日程試験実施
- 3月23日 第25回学位記授与式
- 4月1日 小林聡史学部長就任
韓国・牧園大学から交換学生受入
カナダ・キャピラノ大学招聘教員クリスチャン・ステクラー講師着任
- 4月8日 第29回入学式
- 7月7日～9月29日 高校訪問
- 8月6日 オープンキャンパス
- 8月22日～10月6日 企業訪問
- 9月1日 台湾・明道大学から交換学生受入
- 9月1日～12月31日 第19回短期海外留学生派遣（カナダ・キャピラノ大学）
- 9月30日～10月21日 第27回公開講座（釧路市、鶴居村、釧路市阿寒町）
- 10月7日～9日 第29回大学祭
- 10月14日 特別講演会（上智大学総合グローバル学部 前嶋和弘教授）
- 11月4日 特別講演会（早稲田大学文学部 嶋崎尚子教授）
- 11月24日 平成29年度推薦入学、社会人特別選抜、帰国生徒特別選抜試験実施

平成29年

- 1月14日～15日 大学入試センター試験実施
- 3月8日 平成29年度一般選抜中期日程試験実施
- 3月23日 第26回学位記授与式
- 4月1日 韓国・牧園大学から交換学生受入
カナダ・キャピラノ大学招聘教員スティーン・アトキンス講師着任
- 4月7日 第30回入学式
- 7月11日～9月20日 高校訪問
- 8月5日 オープンキャンパス
- 8月21日～9月29日 企業訪問
- 9月1日 台湾・明道大学、ロシア・サハリン人文工業大学、韓国・牧園大学から交換学生受入
- 9月1日～12月31日 第20回短期海外留学生派遣（カナダ・キャピラノ大学）
- 10月4日～27日 開学30周年記念第28回公開講座（釧路市、厚岸町、釧路市音別町）
- 10月6日～8日 第30回大学祭
- 10月7日 開学30周年記念式典・講演、祝賀会（同窓会との合同開催）

釧路公立大学名簿

●事務組合特別職

職名	氏名	摘要
管理者	蝦名大也	釧路市長
副管理者	名塚昭	釧路市副市長
代表監査委員	中井康晴	釧路市代表監査委員
監査委員	倉井俊勝	釧路町議会議員
公平委員会委員長	稲澤優	弁護士
公平委員会委員	伊藤明日佳	弁護士
公平委員会委員	梁瀬之弘	会社役員

●事務組合議会議員

職名	氏名	摘要
議長	渡辺慶藏	釧路市議会議員
副議長	佐々木敬治	厚岸町議会議員
議員	倉井俊勝	釧路町議会議員
議員	前田光治	浜中町議会議員
議員	後藤勲	標茶町議会議員
議員	高橋正秀	弟子屈町議会議員
議員	秋里廣志	鶴居村議会議員
議員	福地裕行	白糠町議会議員
議員	鶴間秀典	釧路市議会議員
議員	松橋尚文	釧路市議会議員
議員	山口光信	釧路市議会議員
議員	森豊	釧路市議会議員
議員	工藤正志	釧路市議会議員
議員	岡田遼	釧路市議会議員

●教員

職名	氏名	主な担当教科
学部長	高野敏行	独語
学部部長	小林聡史	自然保護学
附属図書館長	白川欽哉	西洋経済史
地域経済研究センター長	佐野修久	地域経営論
教授	河村一	世界経済論
教授	高嶋弘志	日本史
教授	宮崎武俊	露語
教授	加藤和暢	地域開発論
教授	小路行彦	企業論
教授	萩原充	アジア経済史
教授	金子康朗	心理学
教授	宮下弘美	経営史
教授	宮下徹	マクロ経済学
教授	申賢洙	マーケティング論
教授	鈴木慶夏	中国語
教授	岩澤哲	民法
教授	大澤勝文	地理学
教授	皆月昭則	プログラミング論
教授	濱田弘樹	管理会計論
教授	神野照敏	経済学説史

●教員

職名	氏名	主な担当教科
教授	加藤一郎	経営組織論
教授	秋山修一	経済政策
教授	尾崎泰文	情報処理
准教授	水田浩之	国際経済学
准教授	島信夫	財務会計論
准教授	金原いれいね	英語
准教授	辻信幸	憲法
准教授	中村隆文	哲学
准教授	藤田祐	英語
准教授	松浦愛子	英語
准教授	生方雅人	計量経済学
准教授	三輪加奈	国際開発経済論
講師	東裕三	公共経済学
講師	田中達也	教育学概論
講師	北島義和	社会学
講師	千田航	行政学
講師	大澤理沙	社会保障論
講師	曾我寛人	経営統計

●事務局職員

職名	氏名
事務局長	川畑浩士
会計管理者	田中利幸

■学生課

職名	氏名
次長	畑中茂
課長補佐	小野寺美香
専門員	川中功一
主査	遠藤省吾
主査	山口貴志
主査	田中喜幸
主任	嶽山祥子
主事	藤原良太
主事	松村翼
嘱託	前田保宏
嘱託	吉田幸子
嘱託	高橋香織
嘱託	大滝功一
嘱託	馬淵理恵

■総務課

職名	氏名
課長	沼倉利光
課長補佐	戸部貴一
主査	三田郁朗
主査	竹内久恵
主事	高橋宏直
主事	村井未可子
主事	三上健太
主事	佐藤葉月
嘱託	村木陽子

■地域経済研究センター

職名	氏名
主査	松田伊佐央
嘱託	照井秋子

■附属図書館

職名	氏名
課長補佐	中村聡子
専門員	佐藤昭則
主査	大矢修子
嘱託	渡邊香里
嘱託	遠藤育美
嘱託	笹野成美



釧路公立大学

Kushiro Public University of Economics

釧路公立大学 開学30周年記念誌 平成29年10月7日

企画・発行者 釧路公立大学

〒085-8585 釧路市芦野4丁目1番1号 TEL(0154)37-3211